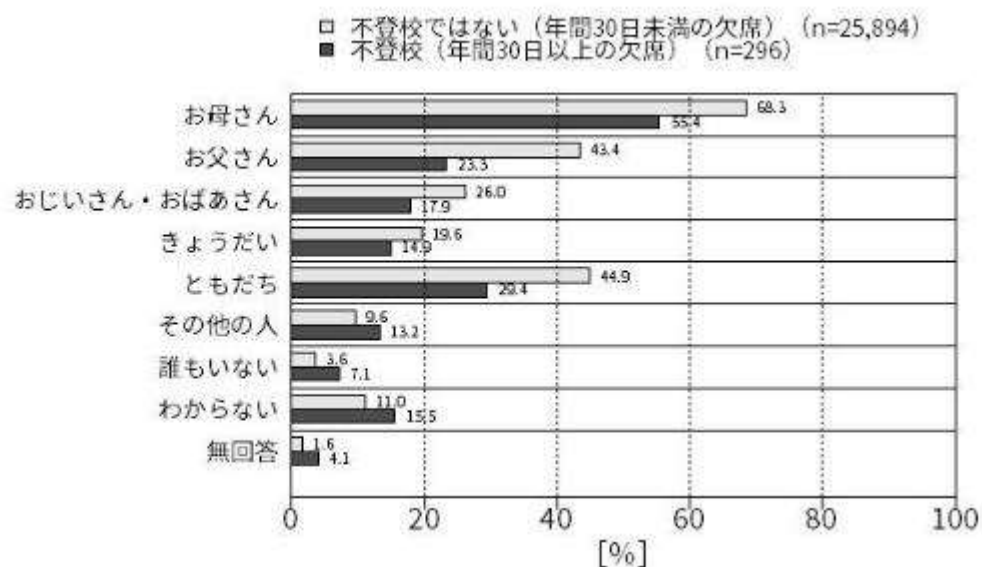


登校状況別に見た、「悩んだときの対処を教えてくださいる人」がいない割合

(保護者票 問 21 × 子ども票 問 23⑥)

<大阪市 24 区>



<大阪市阿倍野区>

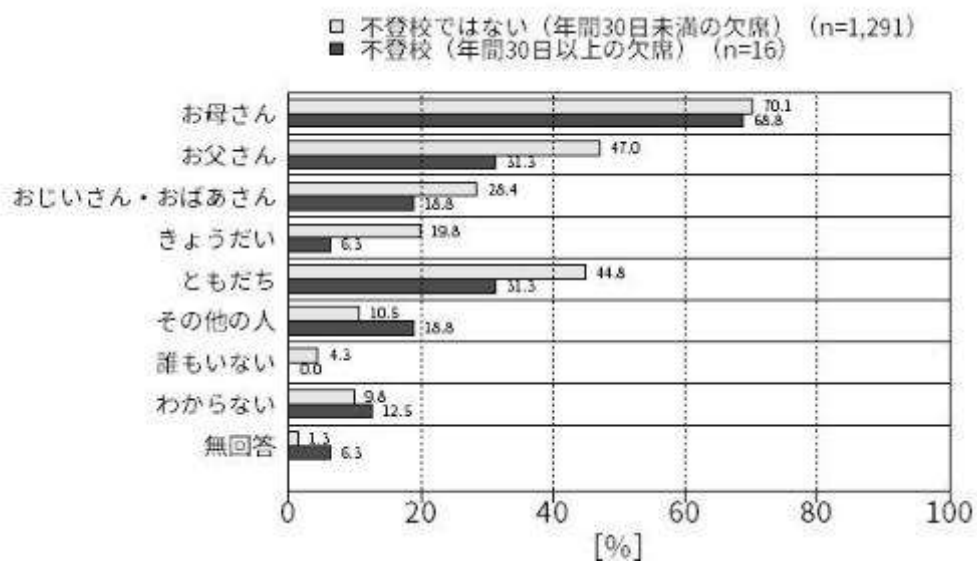
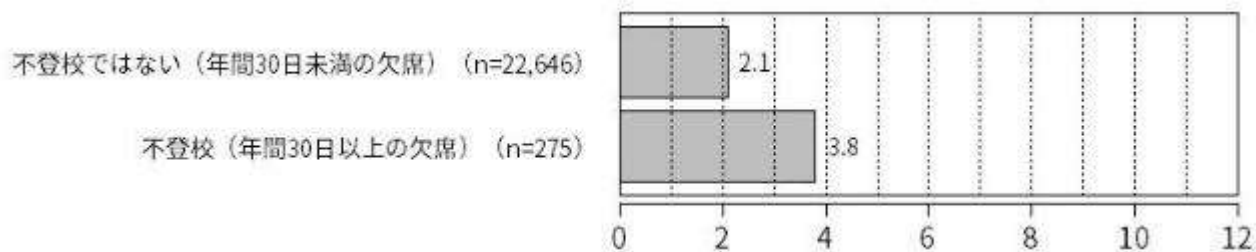


図 259. 登校状況別に見た、「悩んだときの対処を教えてくださいる人」がいない割合

登校状況別に子どもの「悩んだときの対処を教えてくださいる人」がいない割合に着目すると、「不登校」では該当者がいなかった。

登校状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数
 (保護者票 問21 × 子ども票 問24)

<大阪市24区>



<大阪市阿倍野区>

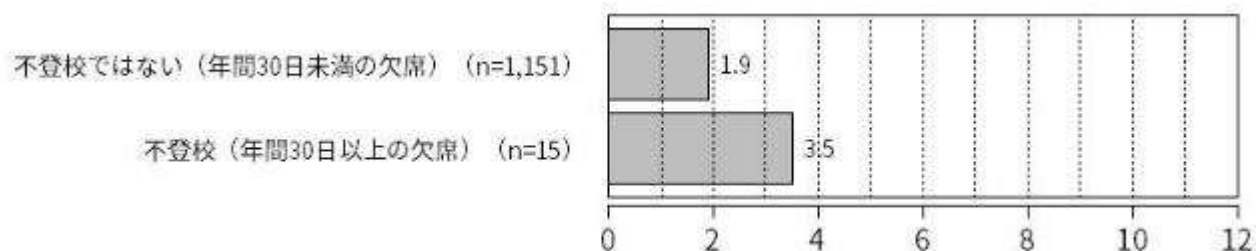


図 260. 登校状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

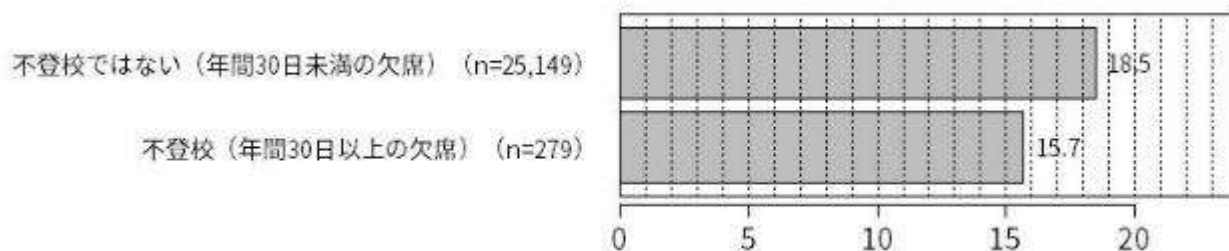
登校状況別に子どもの自分の体や気持ちで気になることの該当個数を見ると、「不登校」では平均3.5個であり、「不登校ではない」子どもの約1.8倍である。

登校状況別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

(保護者票 問 21 × 子ども票 問 26(1)～(6))

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市阿倍野区>

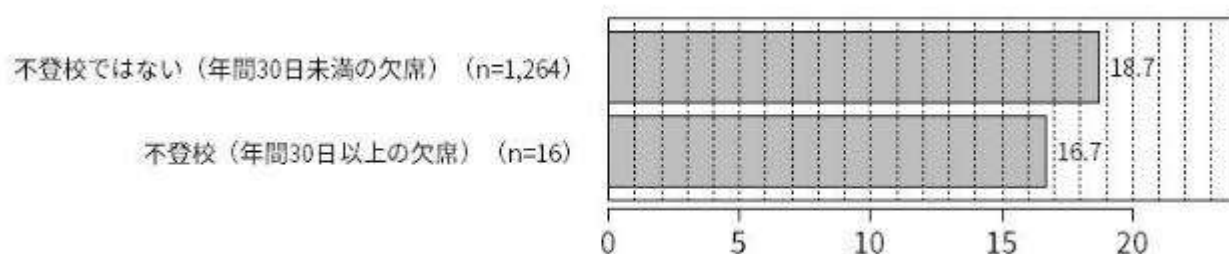
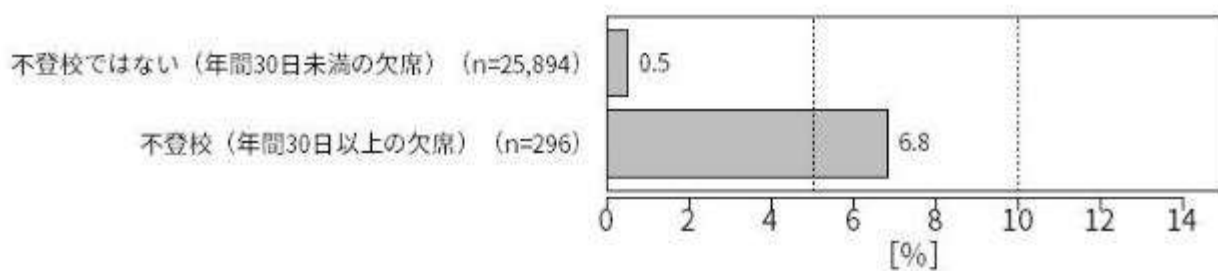


図 261. 登校状況別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

登校状況別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「不登校」では平均 16.7 点であり、「不登校ではない」子どもよりも約 2 点低い。

登校状況別に見た、スクールカウンセラーに相談する割合（保護者票 問 21 × 子ども票 問 22）

<大阪市 24 区>



<大阪市阿倍野区>

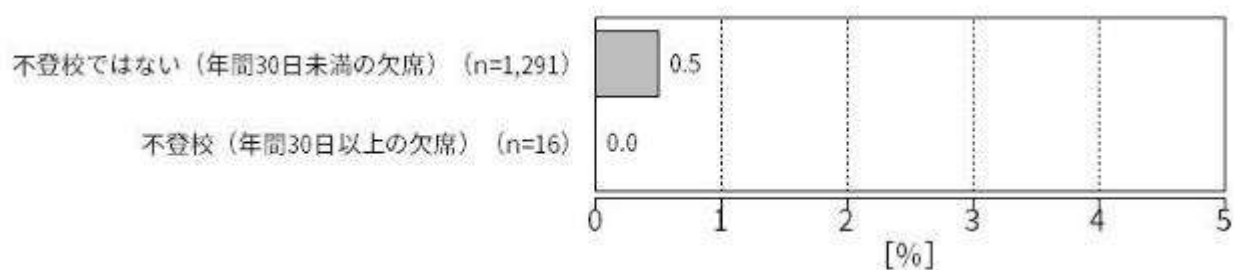
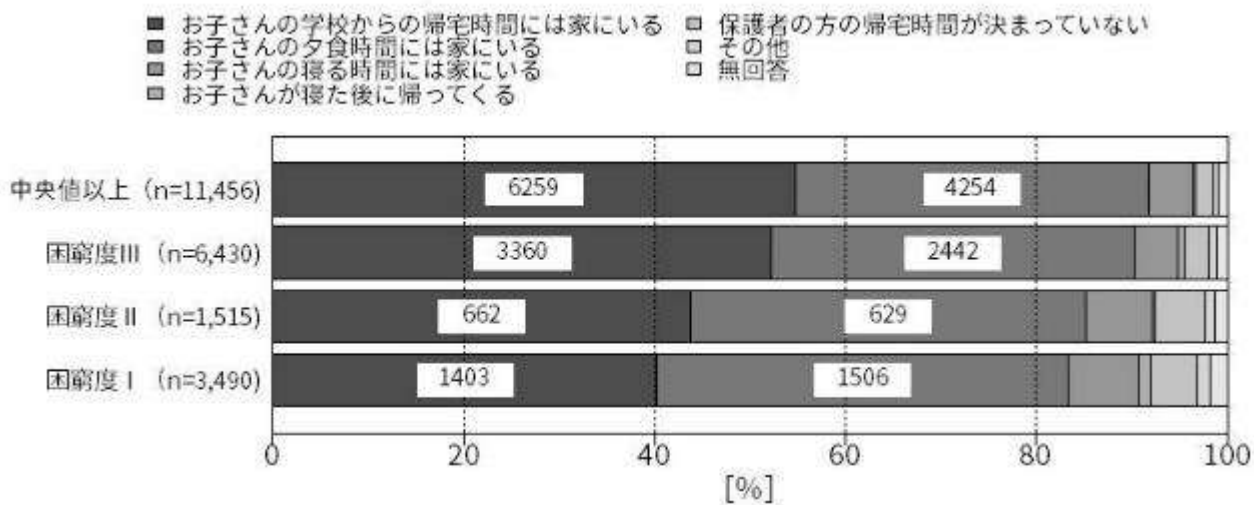


図 262. 登校状況別に見た、スクールカウンセラーに相談する割合

登校状況別に子どもの嫌なことや悩んでいるときにスクールカウンセラーに相談する割合を見ると、「不登校」では該当者がいなかった。

困窮度別に見た、保護者の在宅時間（保護者票 問10）

<大阪市 24 区>



<大阪市阿倍野区>

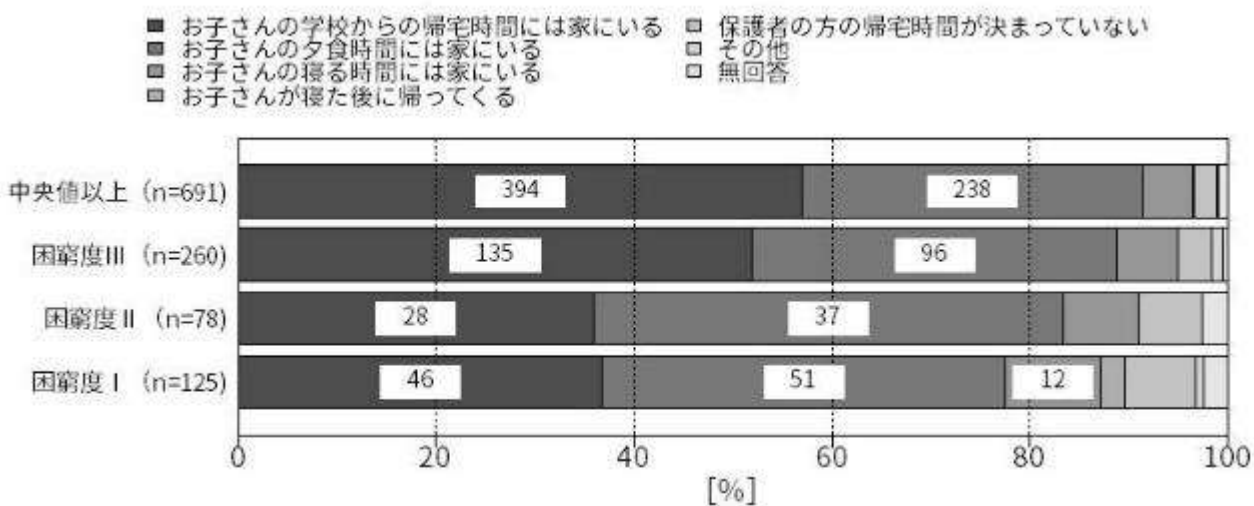
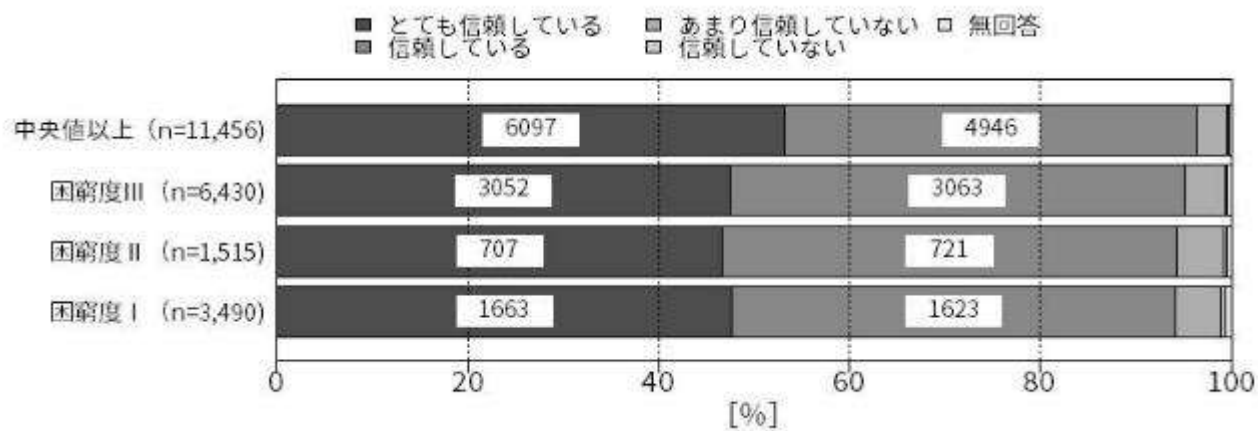


図 263. 困窮度別に見た、保護者の在宅時間

困窮度別に保護者の在宅時間を見ると、中央値以上群の方が、困窮度Ⅰ群よりも、「お子さんの学校からの帰宅時には家にいる」と回答した割合が高い。また、困窮度Ⅰ群では「お子さんの寝る時には家にいる」と回答した割合が高く、9.6%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）（保護者票 問 14(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市阿倍野区>

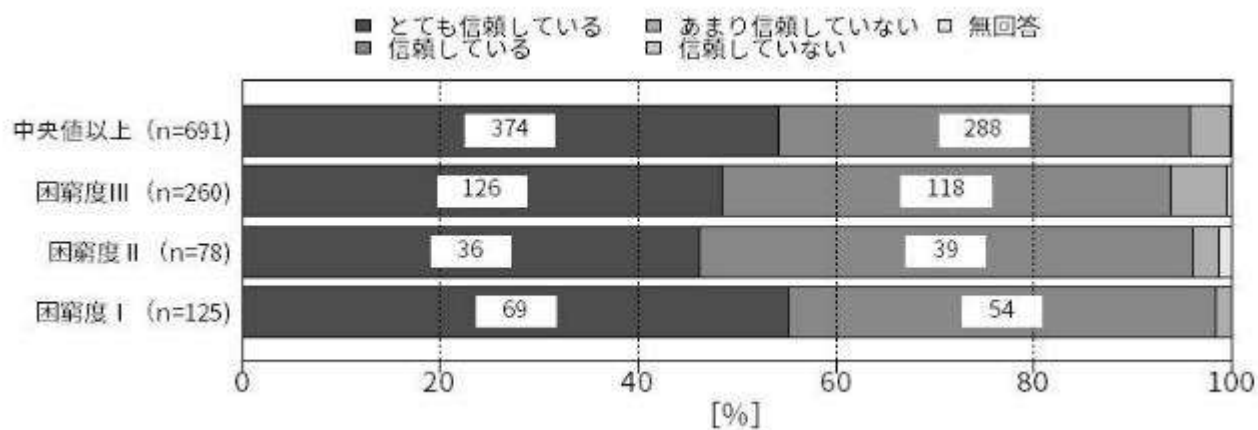
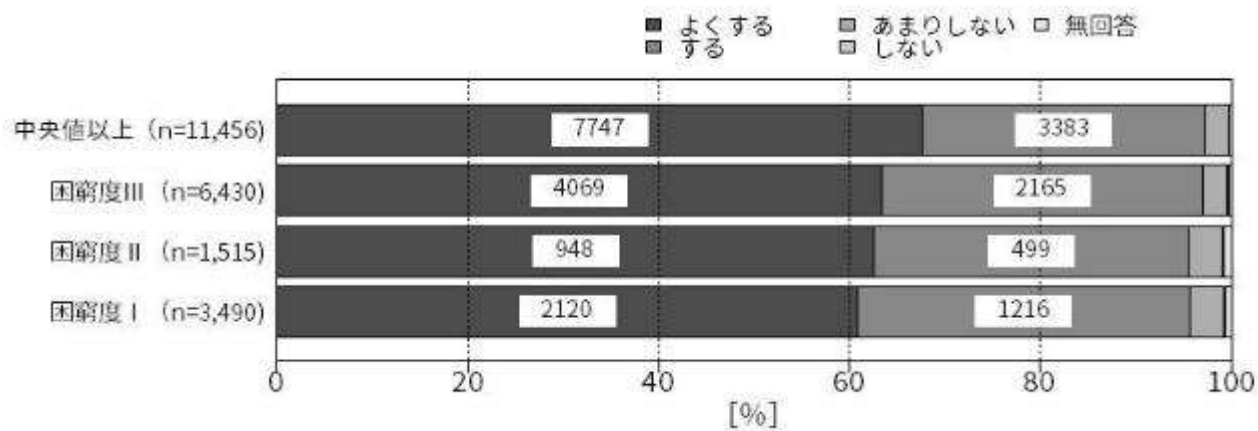


図 264. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）を見ると、「とても信頼している」と回答した割合は、中央値以上群では 54.1%、困窮度Ⅰ群では 55.2%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）（保護者票 問 14(2)）

<大阪市 24 区>



<大阪市阿倍野区>

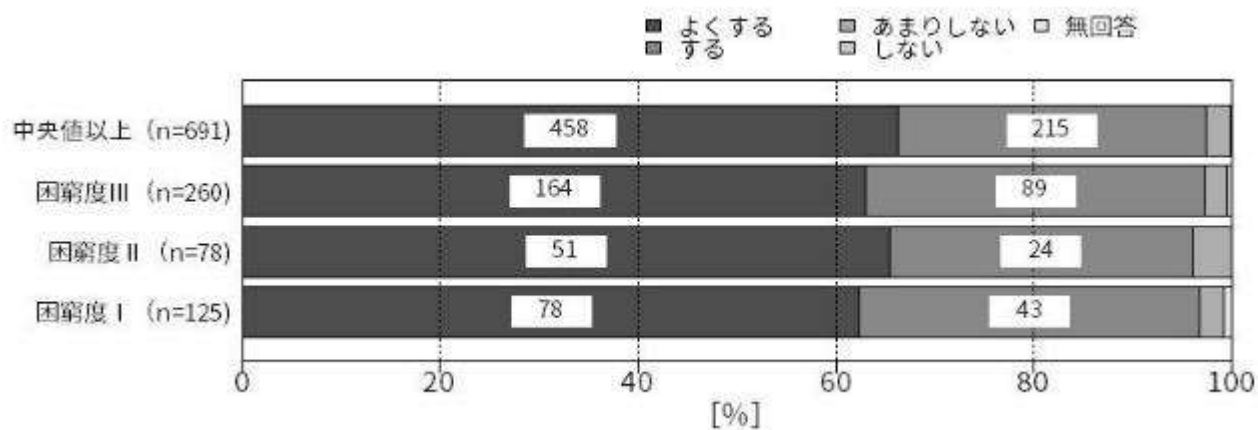
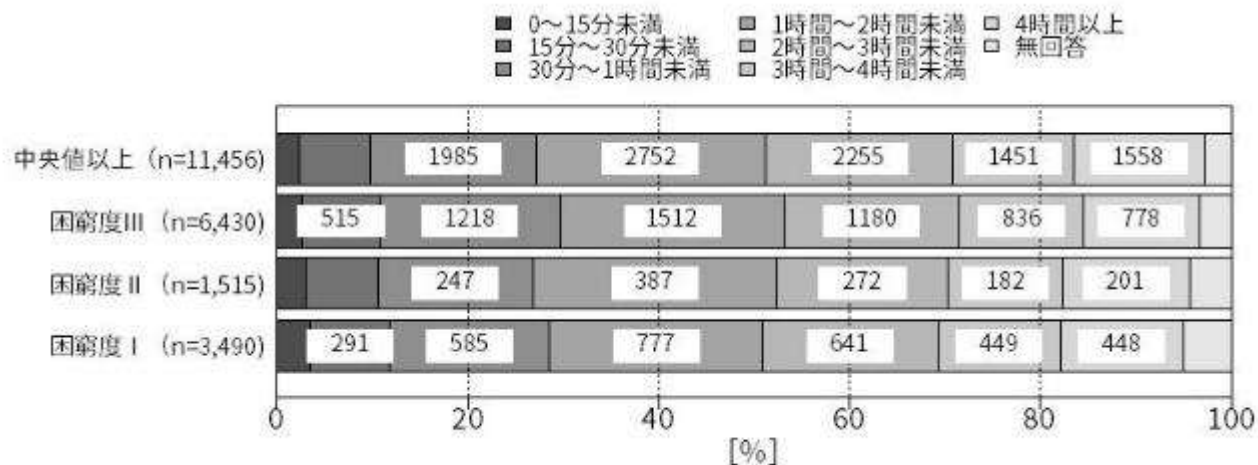


図 265. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもと会話）を見ると、「よくする」と回答した割合は、中央値以上群では 66.3%、困窮度Ⅰ群では 62.4%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））
（保護者票 問 14(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市阿倍野区>

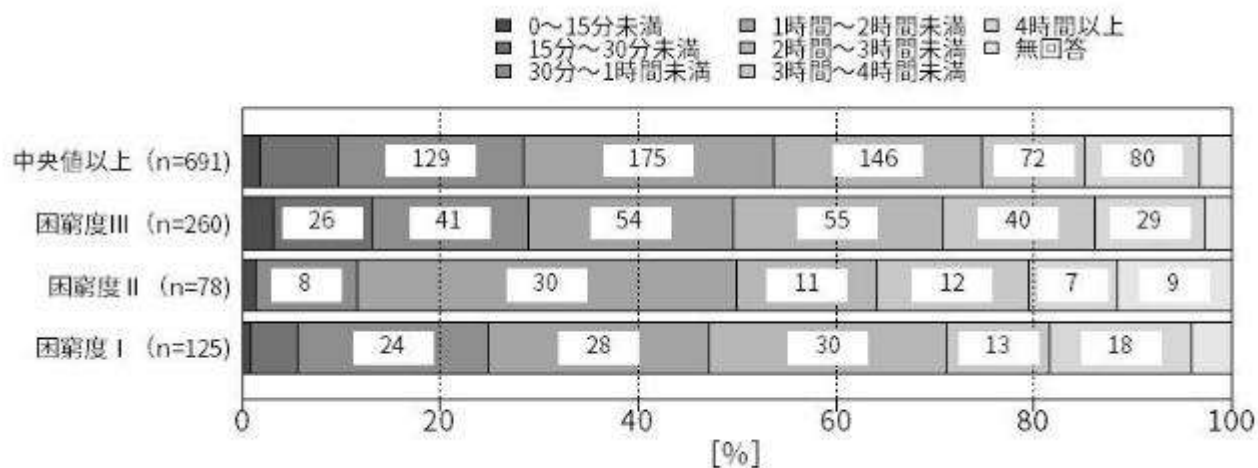
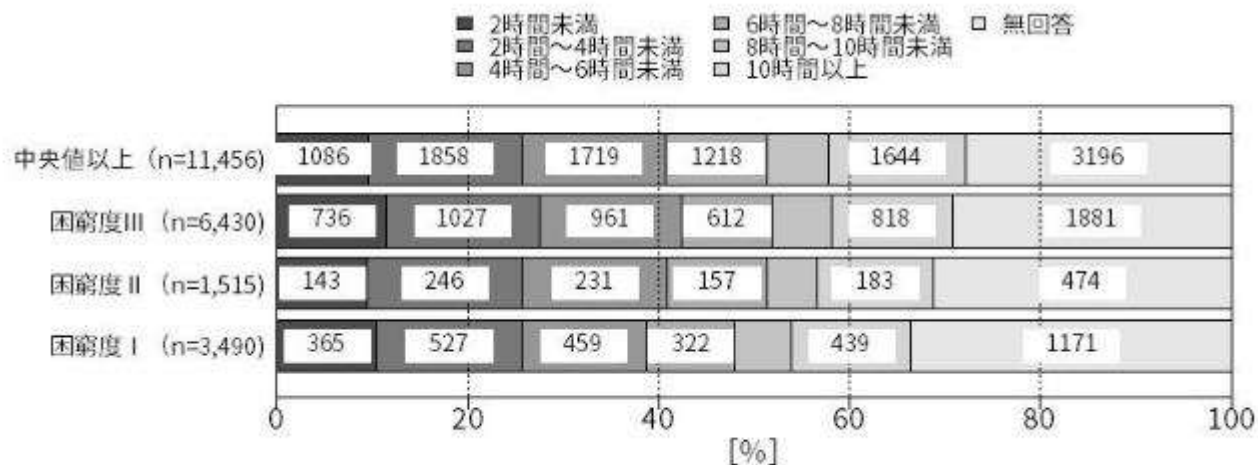


図 266. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））を見ると、困窮度の高まりによる大きな差は見られなかった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））
（保護者票 問 14(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市阿倍野区>

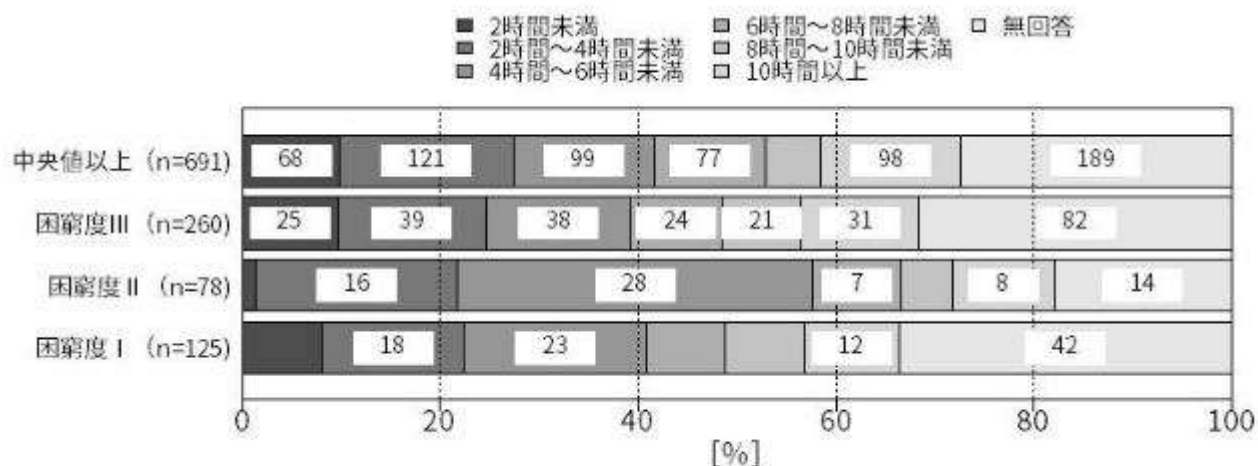
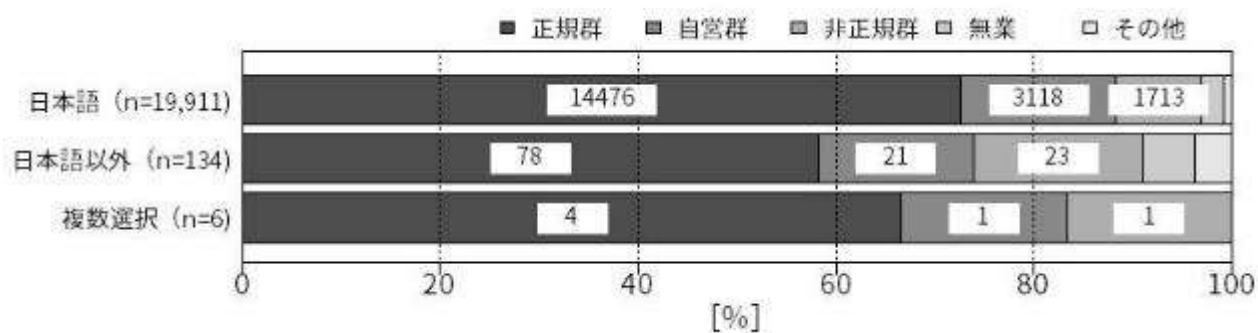


図 267. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））

困窮度別に保護者と子どもの関わり（子どもの一緒にいる時間（休日））を見ると、困窮度の高まりによる大きな差は見られなかった。

日常生活でよく使う言葉別に見た、就労状況
 (保護者票 問2 × 保護者票 就労状況)

<大阪市24区>



<大阪市阿倍野区>

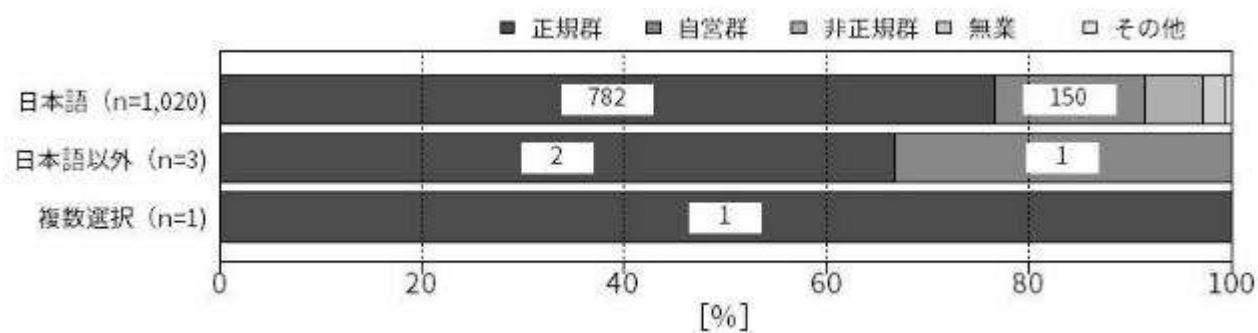


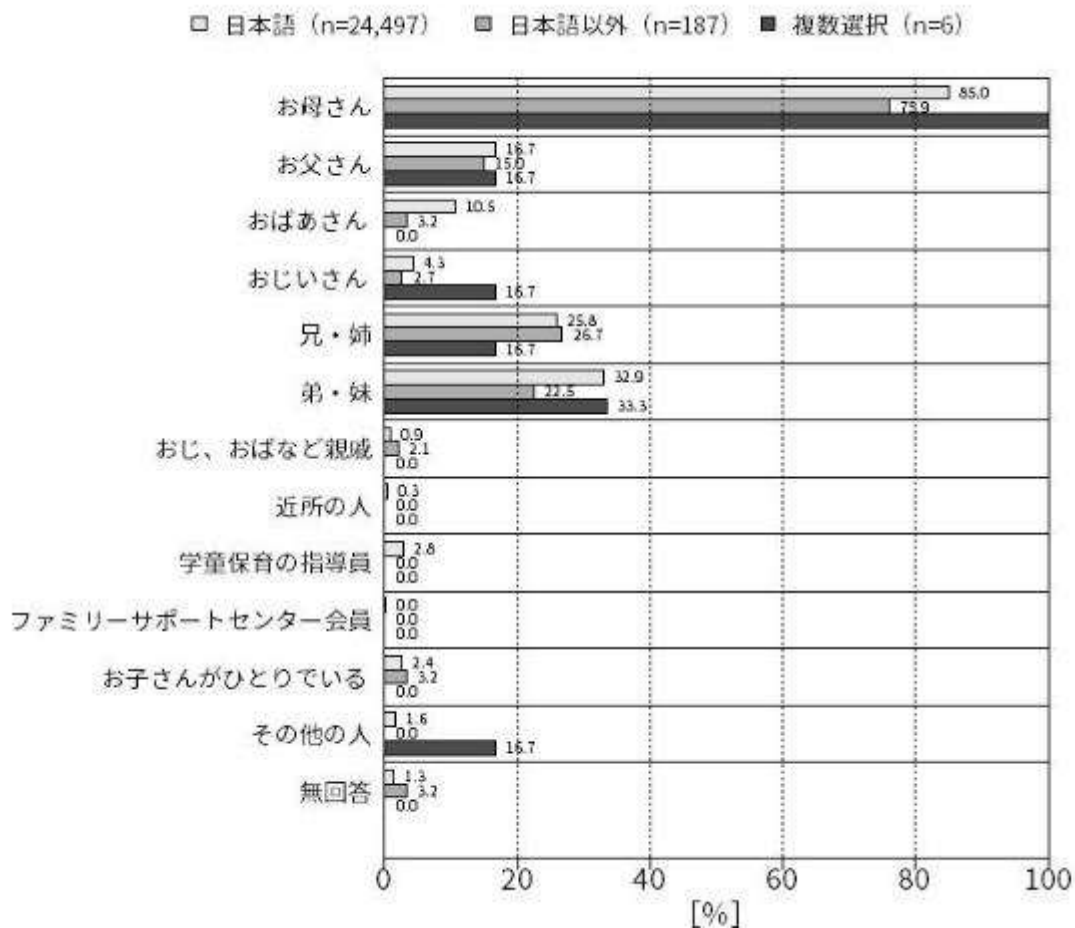
図 268. 日常生活でよく使う言葉別に見た、就労状況

日本語以外と回答した人数が3名と少なく、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもと過ごす時間が長い人

(保護者票 問2 × 保護者票 問11)

<大阪市24区>



<大阪市阿倍野区>

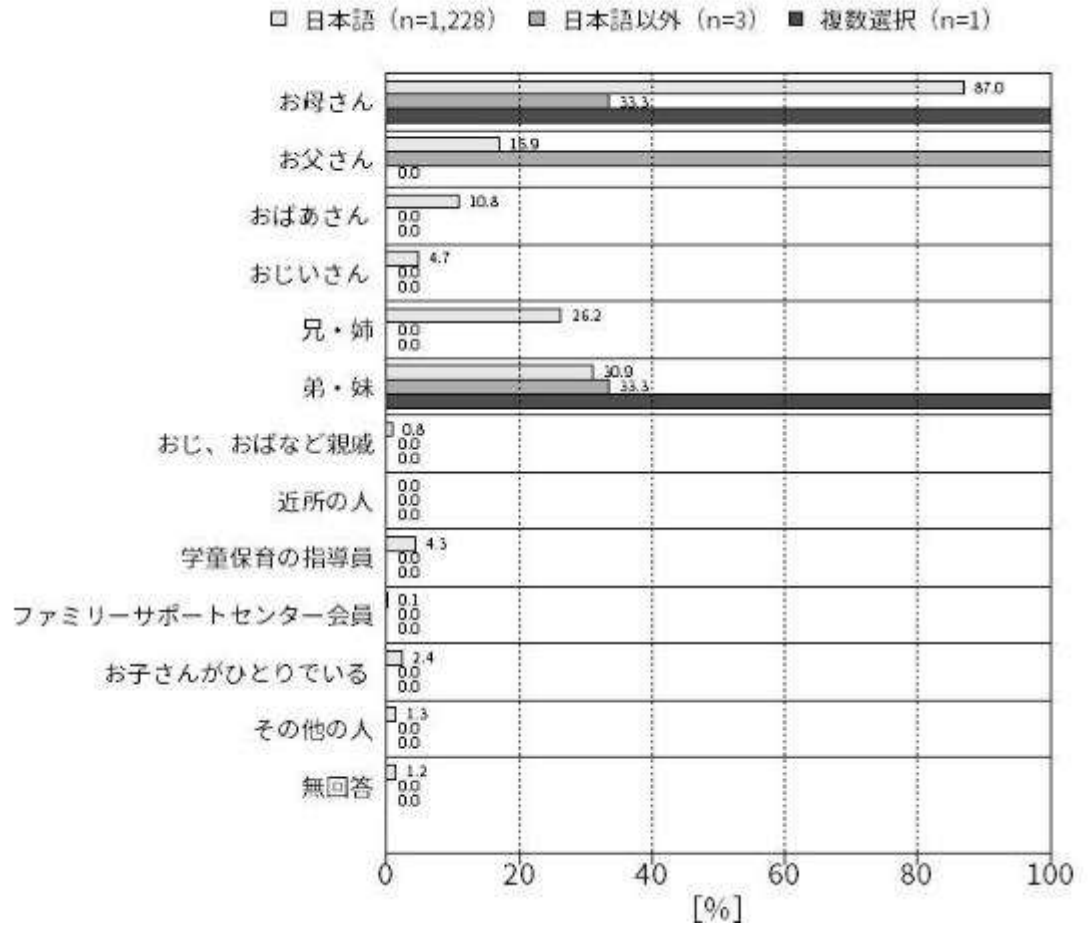
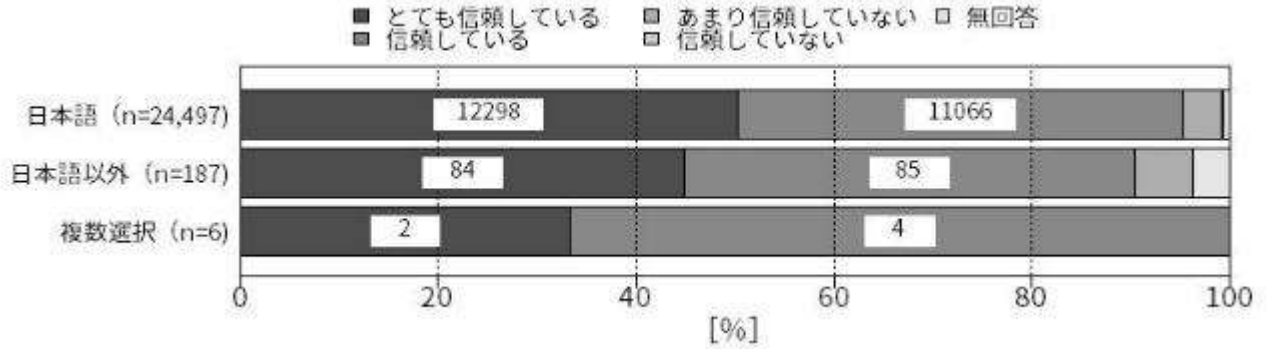


図 269. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもと過ごす時間が長い人

日本語以外と回答した人数が3名と少なく、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり
 (子どもへの信頼度) (保護者票 問2 × 保護者票 問14(1))

<大阪市24区>



<大阪市阿倍野区>

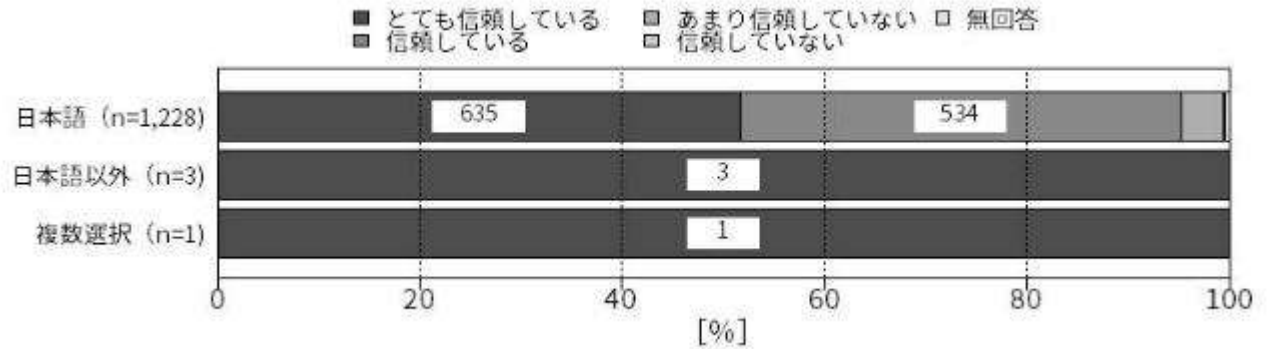
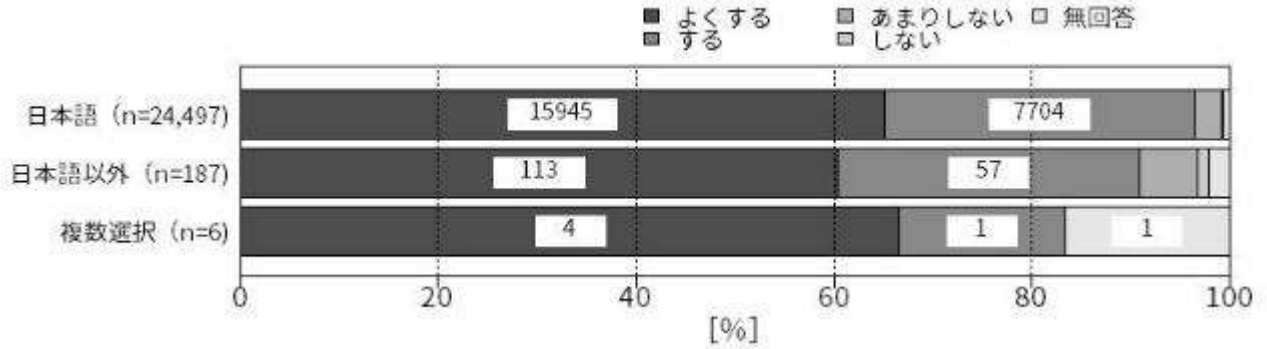


図 270. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり (子どもへの信頼度)

日本語以外と回答した人数が3名と少なく、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり
 (子どもと会話) (保護者票 問2 × 保護者票 問14(2))

<大阪市24区>



<大阪市阿倍野区>

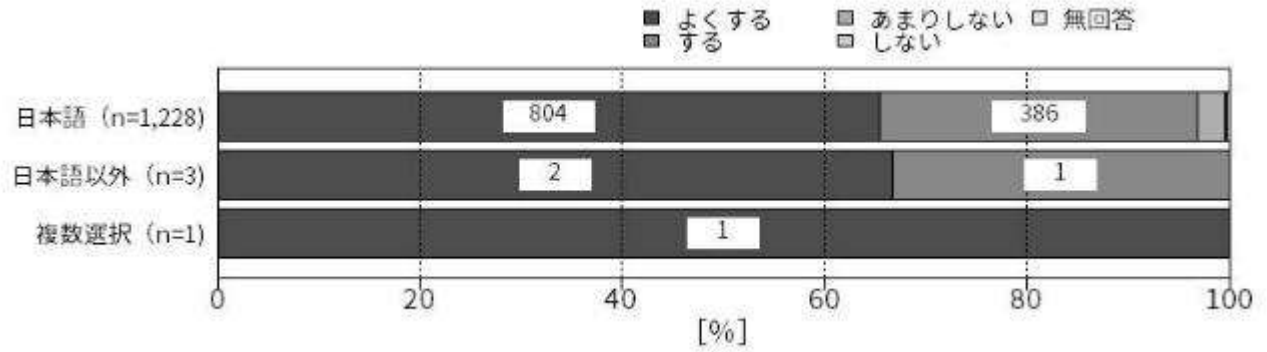


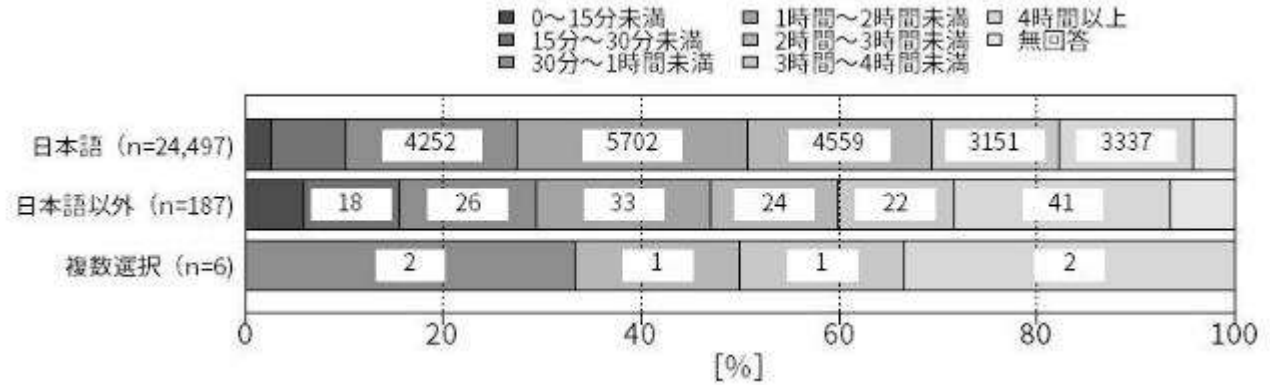
図 271. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり (子どもと会話)

日本語以外と回答した人数が3名と少なく、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり

(子どもと一緒にいる時間(平日))(保護者票 問2 × 保護者票 問14(3))

<大阪市24区>



<大阪市阿倍野区>

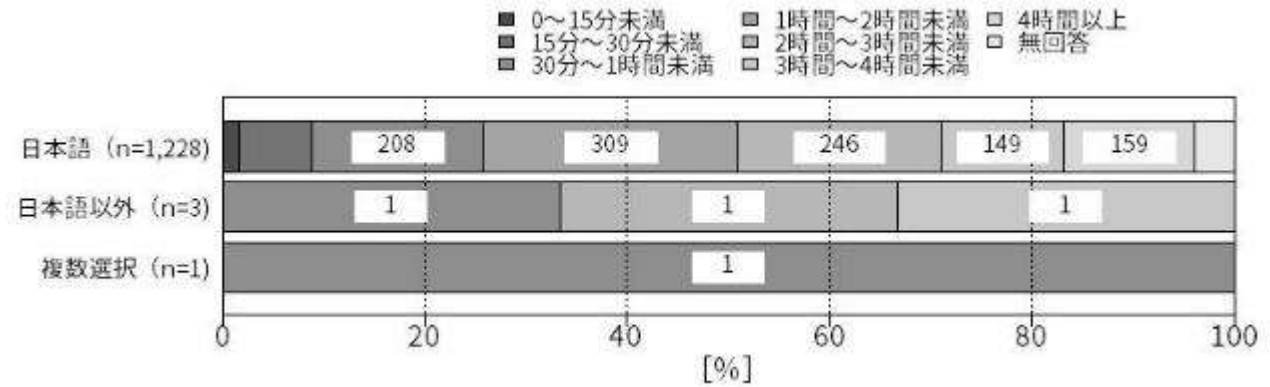


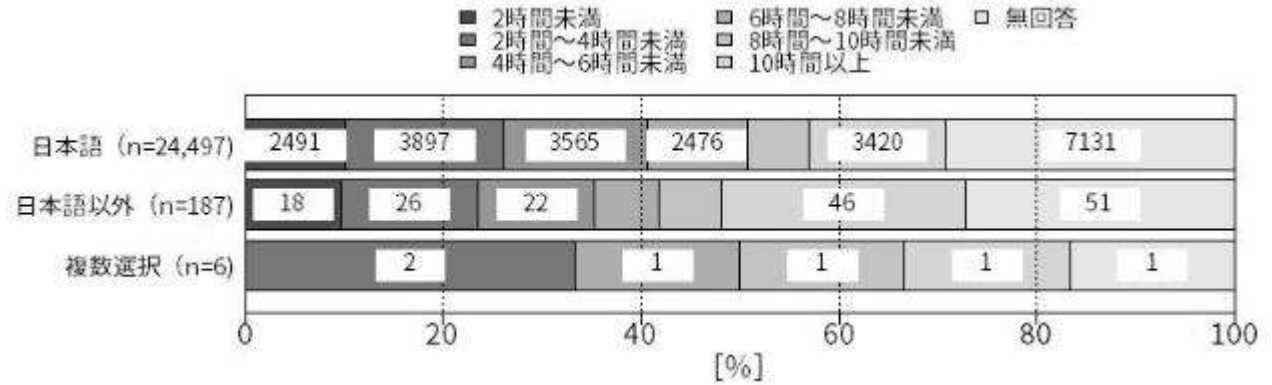
図 272. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり
(子どもと一緒にいる時間(平日))

日本語以外と回答した人数が3名と少なく、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり

(子どもと一緒にいる時間(休日))(保護者票 問2 × 保護者票 問14(3))

<大阪市24区>



<大阪市阿倍野区>

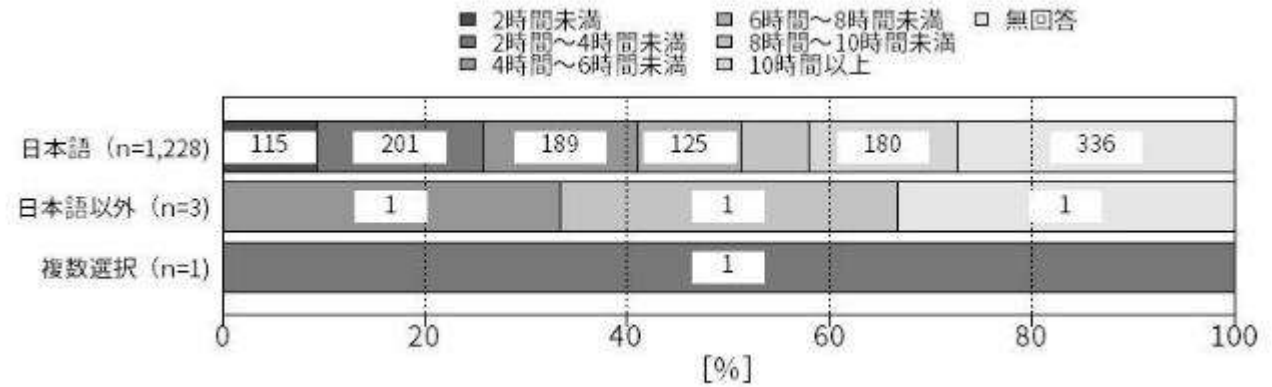
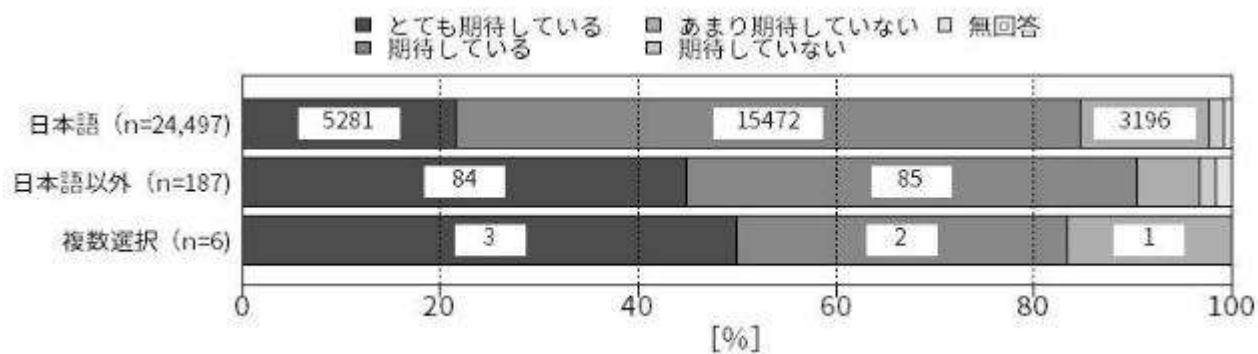


図 273. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり
(子どもと一緒にいる時間(休日))

日本語以外と回答した人数が3名と少なく、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）
 （保護者票 問2 × 保護者票 問14(4)）

<大阪市24区>



<大阪市阿倍野区>

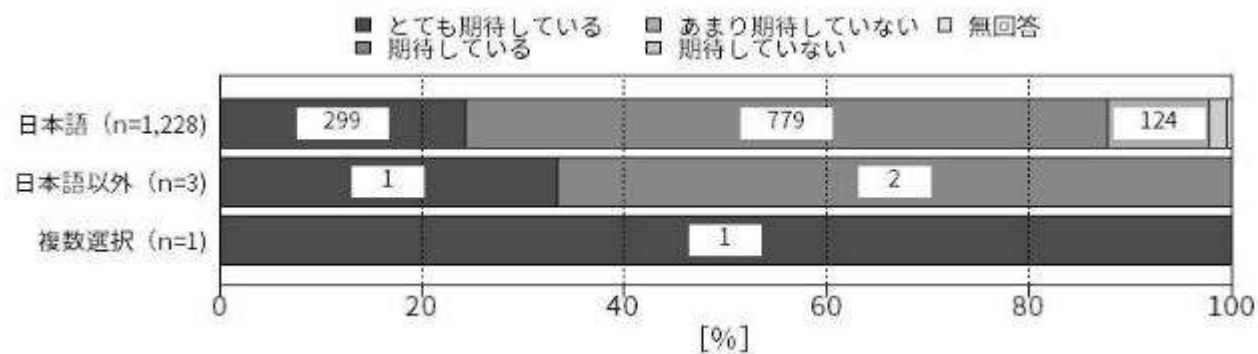
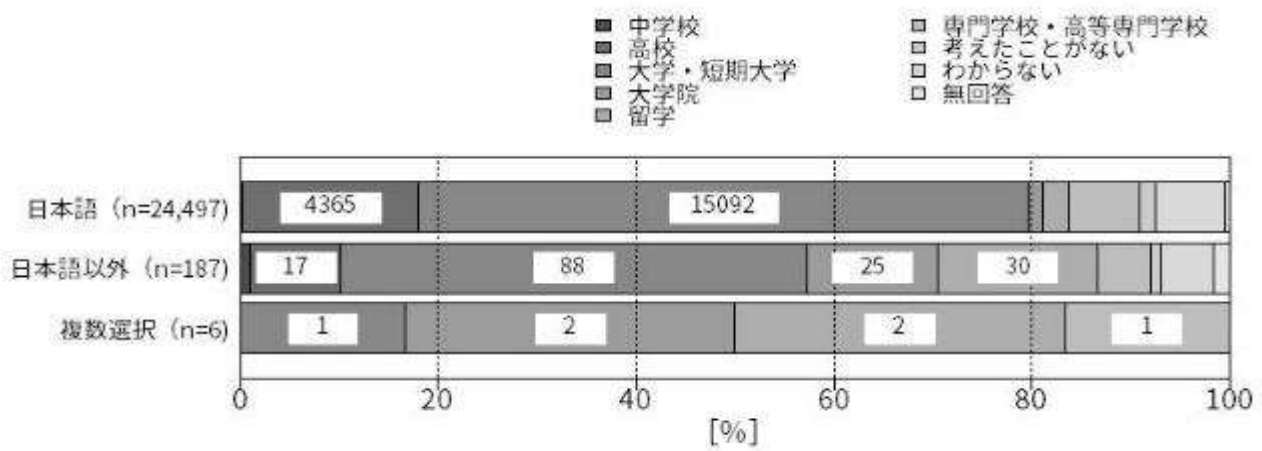


図 274. 日常生活でよく使う言葉別に見た、保護者と子どもの関わり
 (子どもへの将来の期待)

日本語以外と回答した人数が3名と少なく、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、希望する進学先（保護者票 問2 × 保護者票 問15）

<大阪市24区>



<大阪市阿倍野区>

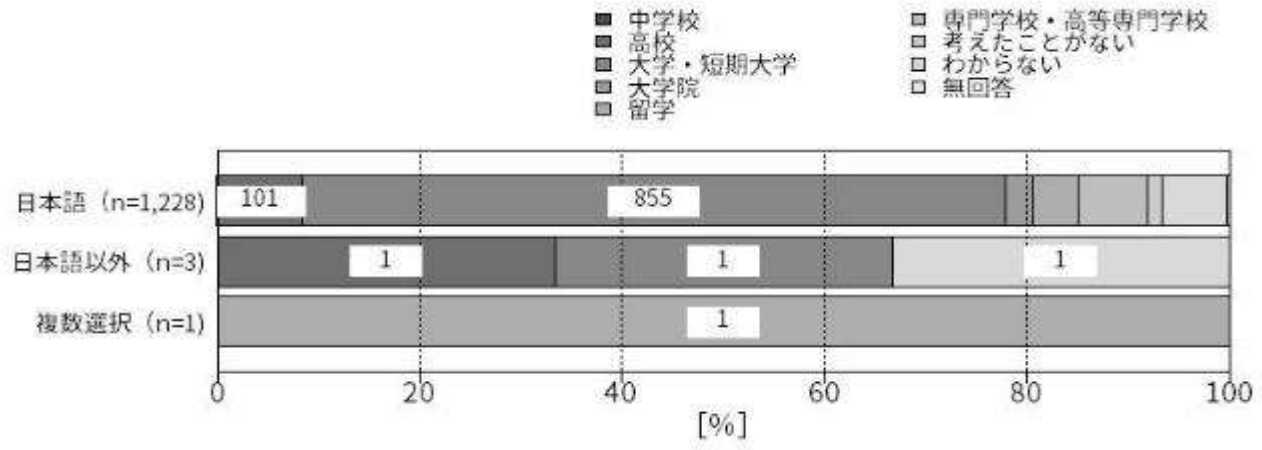


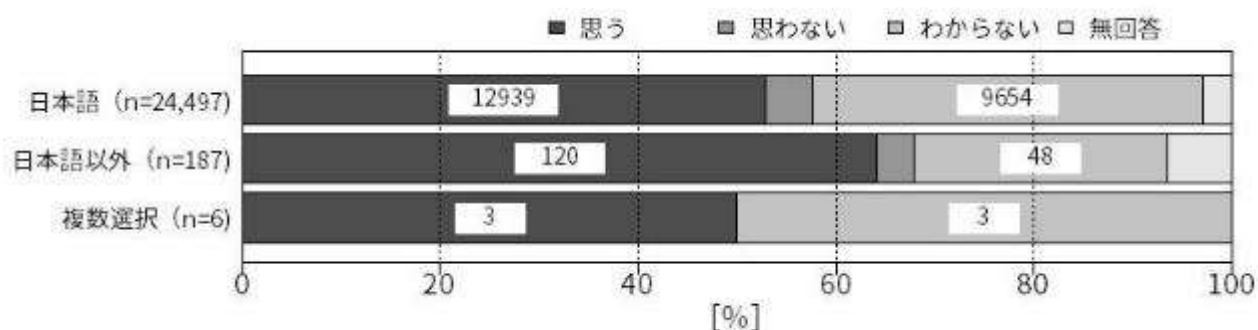
図 275. 日常生活でよく使う言葉別に見た、希望する進学先

日本語以外と回答した人数が3名と少なく、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの進学達成予測

(保護者票 問2 × 保護者票 問16)

<大阪市24区>



<大阪市阿倍野区>

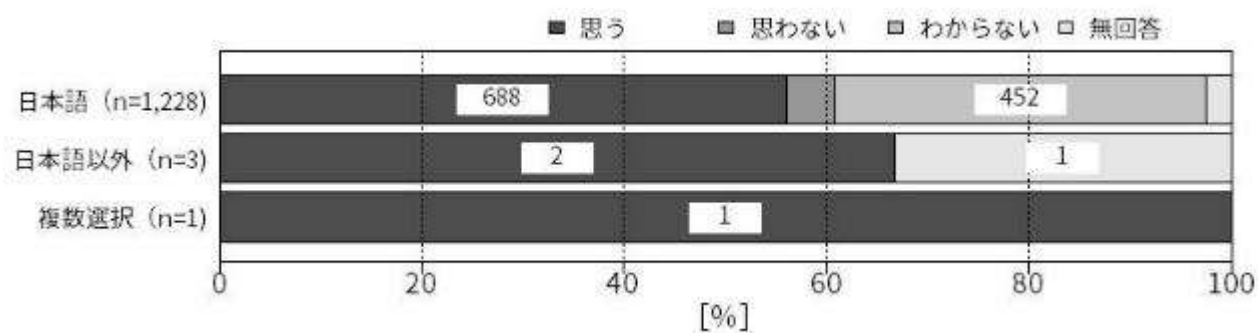
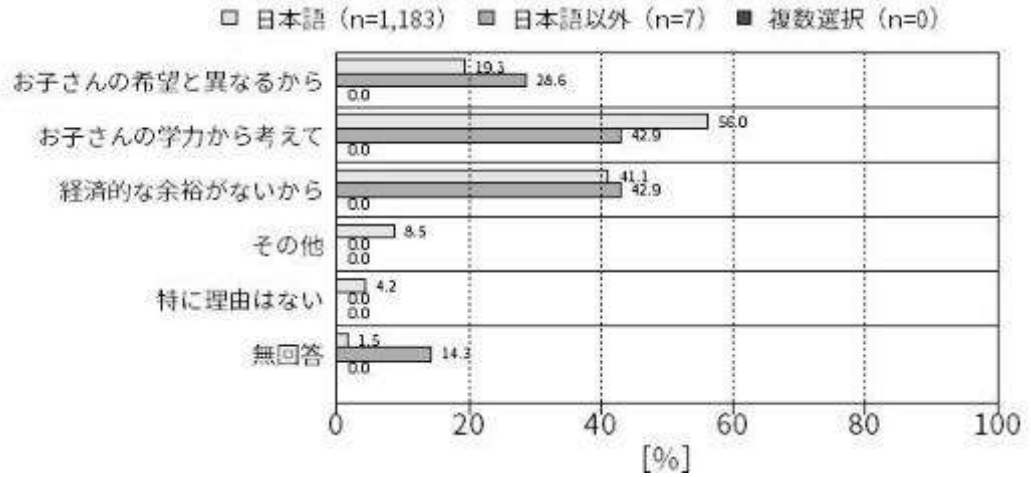


図 276. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの進学達成予測

日本語以外と回答した人数が3名と少なく、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの進学達成「思わない」理由
 (保護者票 問2 × 保護者票 問17)

<大阪市24区>



<大阪市阿倍野区>

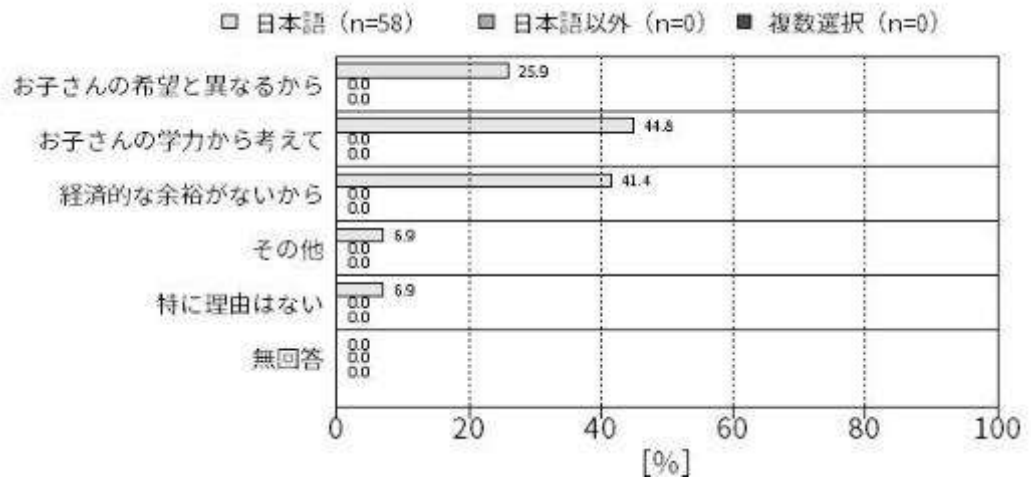
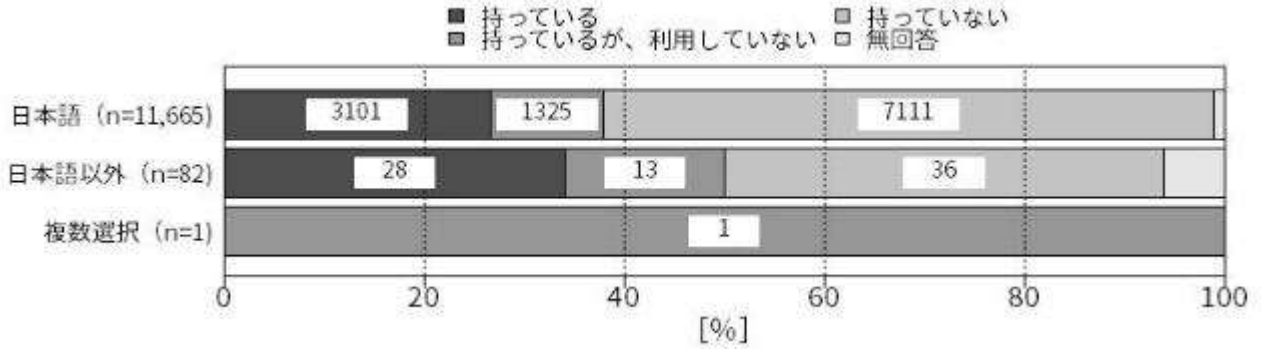


図 277. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの進学達成「思わない」理由

日本語を母語としない回答者がいないため傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードの所持状況
 (保護者票 問2 × 保護者票 問18)

<大阪市24区>



<大阪市阿倍野区>

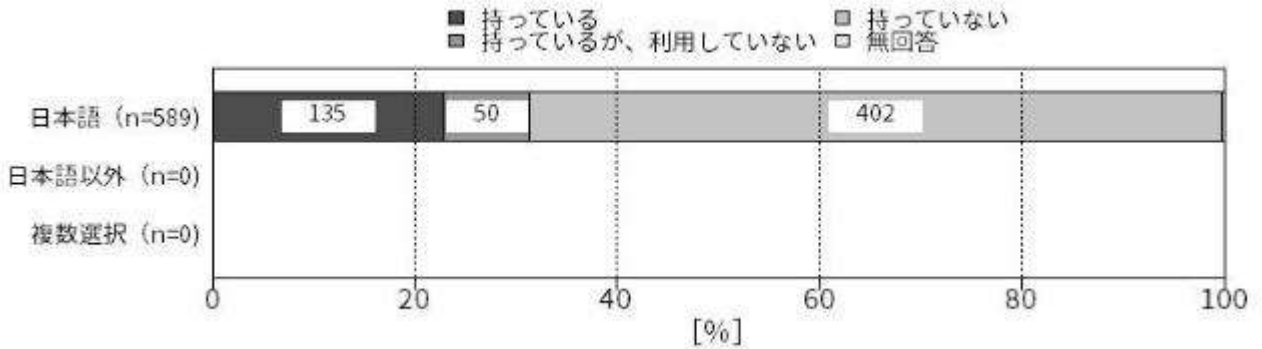
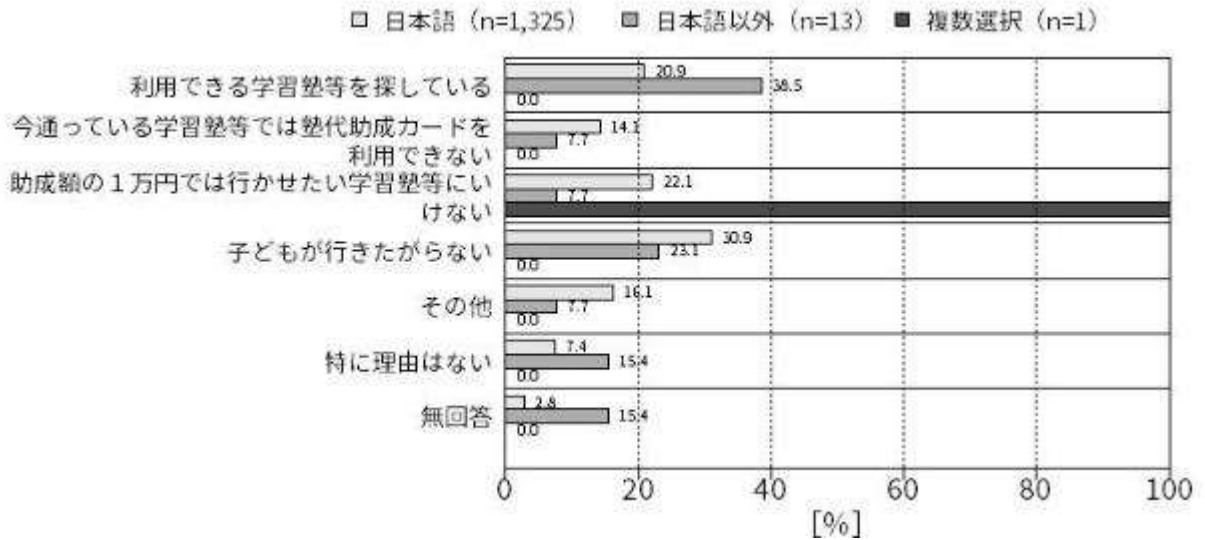


図 278. 日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードの所持状況

日本語を母語としない回答者がいないため、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っているが利用していない理由
 (保護者票 問2 × 保護者票 問19)

<大阪市24区>



<大阪市阿倍野区>

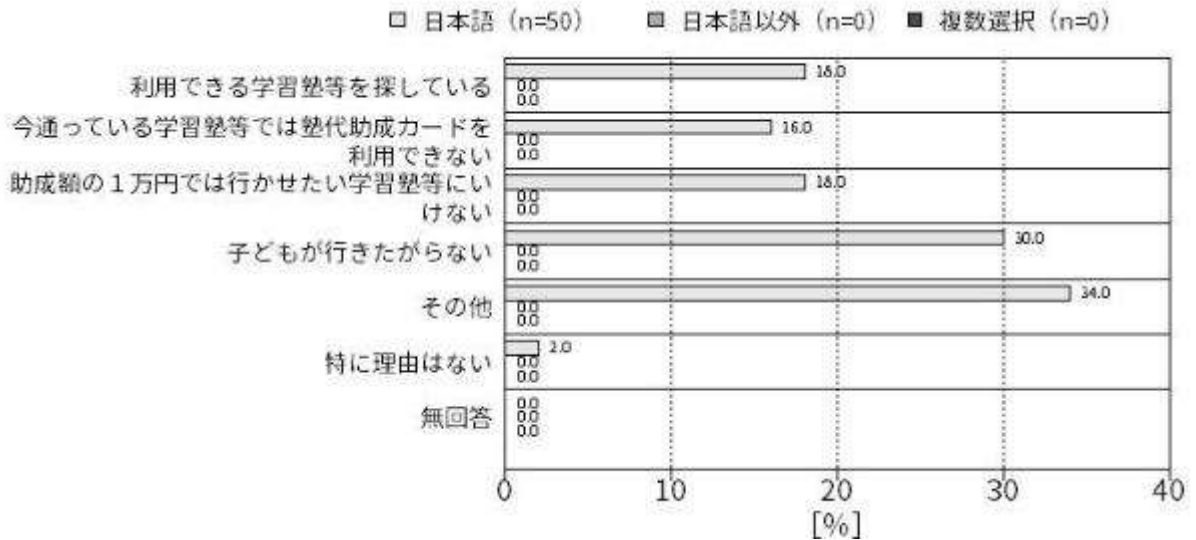


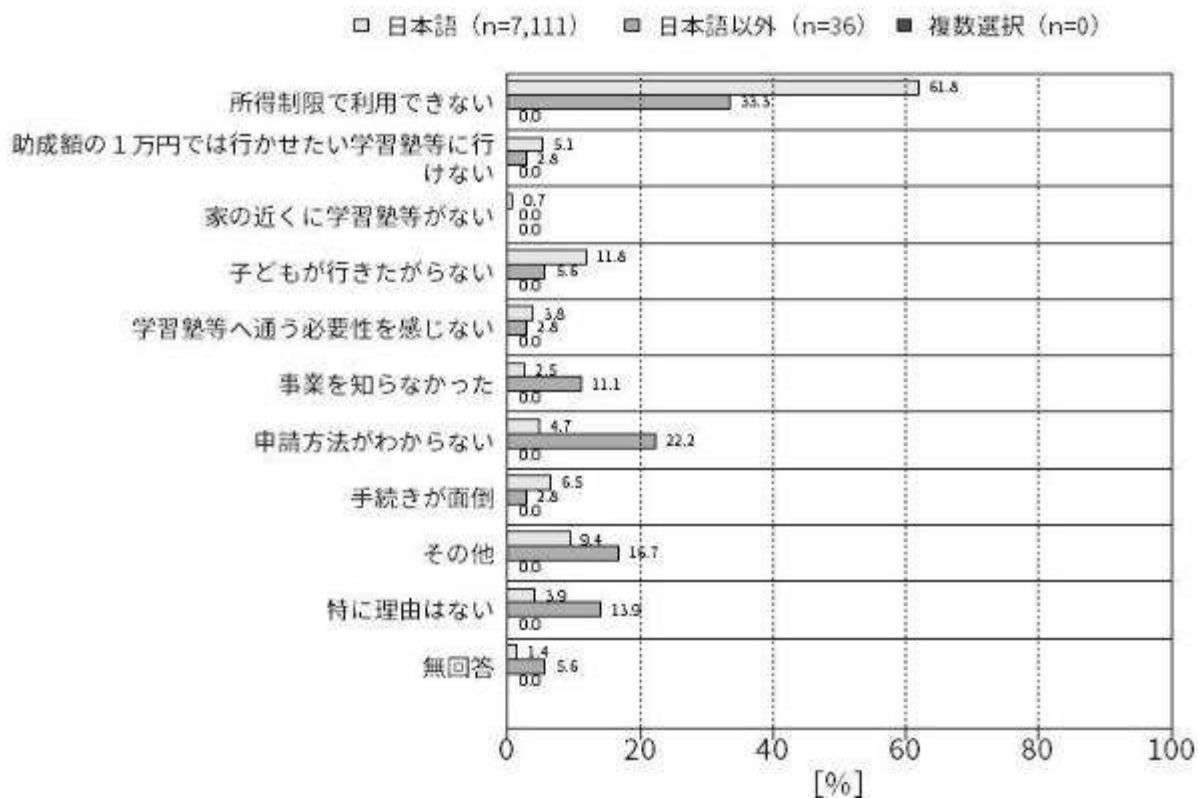
図 279. 日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っているが利用していない理由

日本語を母語としない回答者がいないため、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っていない理由

(保護者票 問2 × 保護者票 問20)

<大阪市24区>



<大阪市阿倍野区>

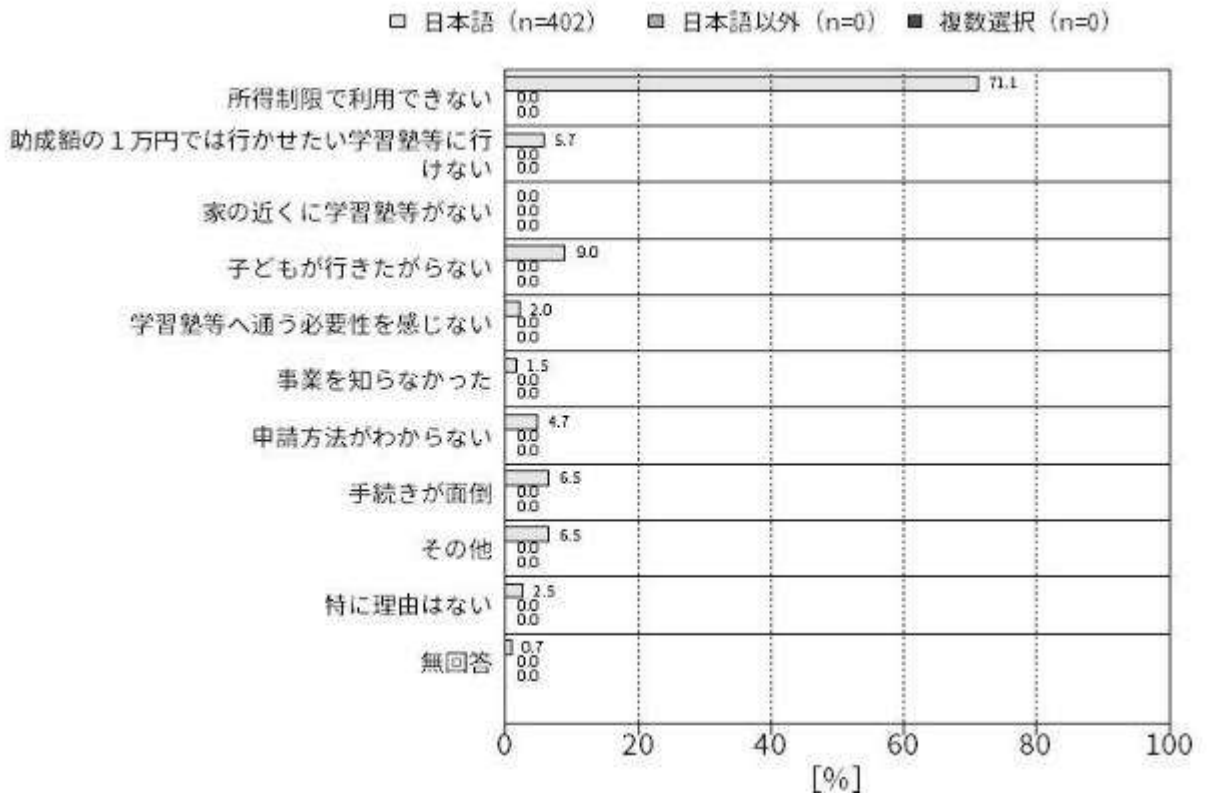


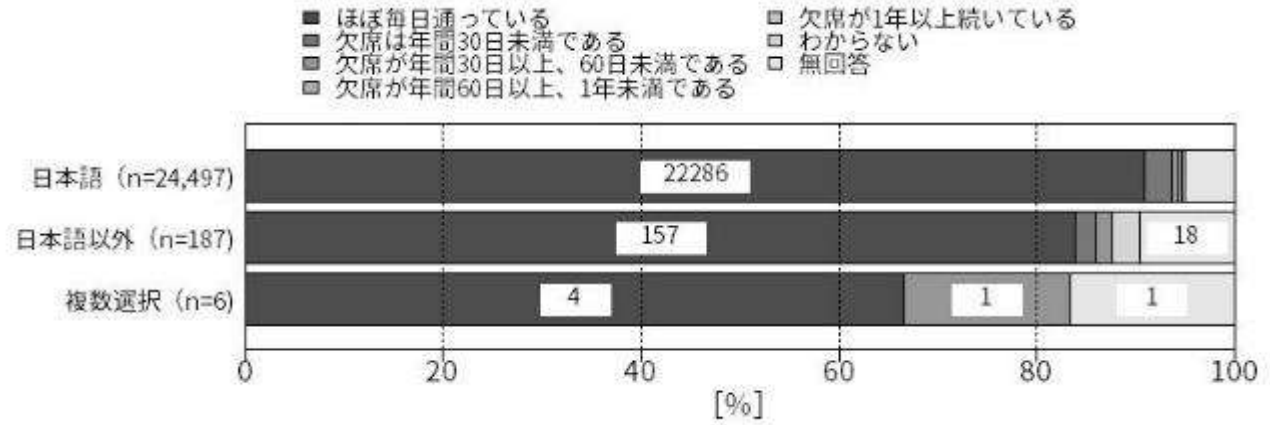
図 280. 日常生活でよく使う言葉別に見た、塾代助成カードを持っていない理由

日本語を母語としない回答者がいないため、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの通学状況

(保護者票 問2 × 保護者票 問21)

<大阪市24区>



<大阪市阿倍野区>

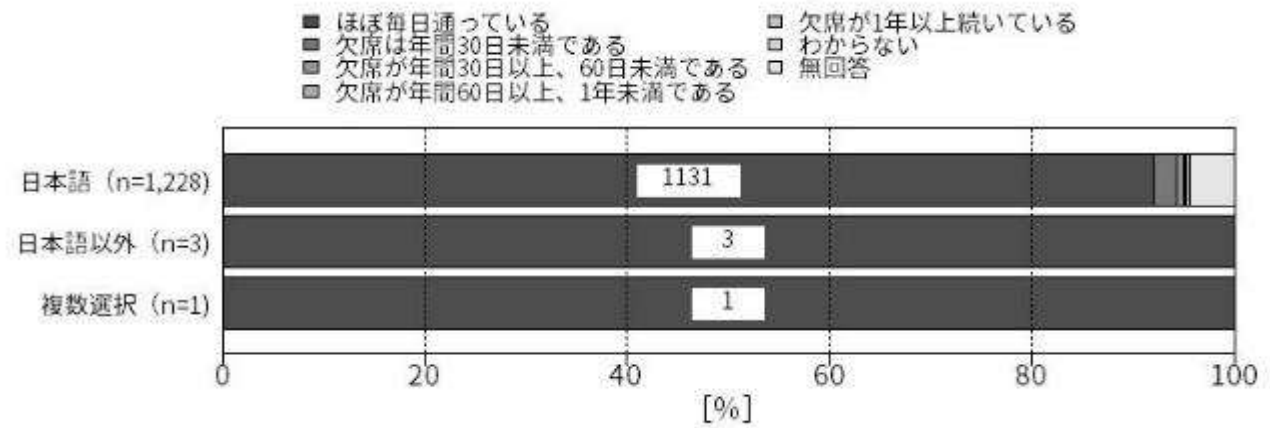


図 281. 日常生活でよく使う言葉別に見た、子どもの通学状況

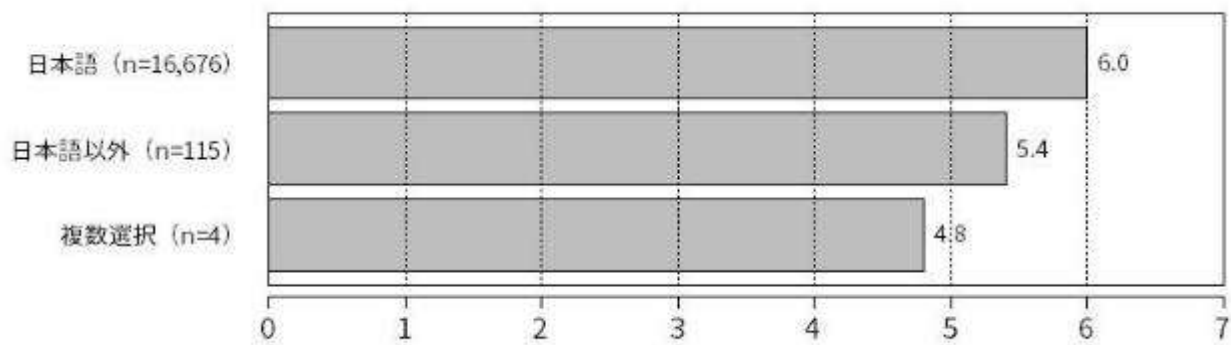
日本語以外と回答した人数が3名と少なく、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、支えてくれる人得点

(保護者票 問2 × 保護者票 問23①～⑦)

※「支えてくれる人得点」については図198上の説明参照。

<大阪市24区>



<大阪市阿倍野区>

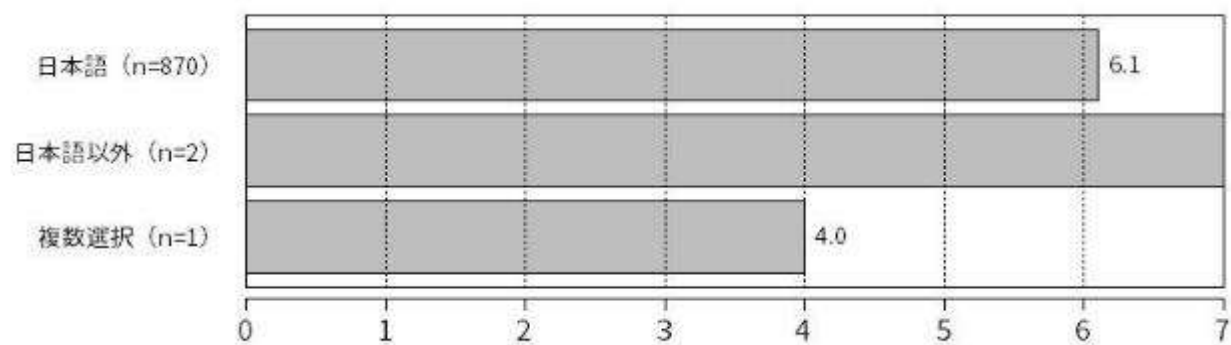


図 282. 日常生活でよく使う言葉別に見た、支えてくれる人得点

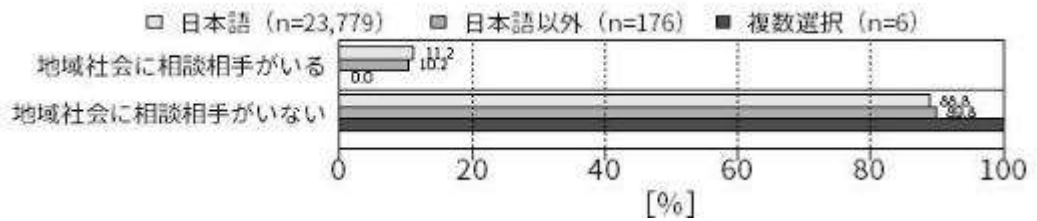
日本語以外と回答した人数が2名と少なく、傾向を述べることはできない。

日常生活でよく使う言葉別に見た、地域社会における相談相手の有無

(保護者票 問2 × 保護者票 問24)

※「あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか」という問いに対し、「学校の先生やスクールカウンセラー」「子育て講座(小・中学生を持つ保護者を対象)等を担当するリーダーや職員等」「公的機関や役所の相談員」「学童保育の指導員」「地域の民生委員・児童委員」「民間の支援団体」「民間のカウンセラー・電話相談」「医療機関の医師や看護師」のうち少なくとも1つを選択した人を、「地域社会に相談相手がいる」とした。

<大阪市24区>



<大阪市阿倍野区>

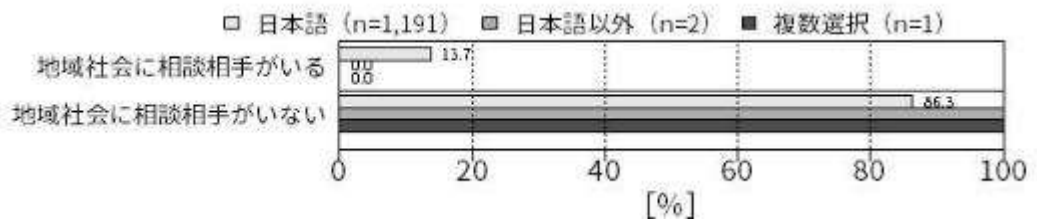


図 283. 日常生活でよく使う言葉別に見た、地域社会における相談相手の有無

日本語以外と回答した人数が2名と少なく、傾向を述べることはできない。

<家庭生活・学習に関する考察>

困窮度が高まるにつれ、おうちの大人の人と一緒に朝食を取る頻度が下がり、困窮度Ⅰ群では、「まったく」「ほとんどない」合わせると36.2%（大阪市全体：35.3%）が朝食を一緒にとっていない。これは中央値以上群と10ポイント程度の差がある。同様に、おうちの大人に宿題をみてもらう頻度、大人と文化活動をする頻度も困窮度が高まるにつれ下がっている。困窮度Ⅰ群において、宿題を見てもらわない子どもは69.3%（大阪市全体63.2%）、文化活動を行わない子どもは75.0%（大阪市全体：78.1%）を占めた。

授業以外の勉強時間について、困窮度が高まるにつれ、30分以内しか勉強しない子どもの割合が増える。「まったくしない」または「30分より少ない」時間しかしない人は、中央値以上群で16.8%（大阪市全体：21.0%）であるのに対して、困窮度Ⅰ群では35.5%（大阪市全体：33.2%）を占める。また、学習理解度が困窮度の高さで下がっていることも見られ、困窮度Ⅰ群では、「ほとんどわからない」「あまりわからない」人が23.4%（大阪市全体：23.4%）になる。勉強時間の短さが学習理解度に影響している可能性が伺える。

同じ時刻に起床しない、朝食を毎日とらないなど生活習慣が確立していない子どものほうが勉強や読書を「まったくしない」傾向がある。これらの生活習慣は、困窮度が高くなると確立していない傾向がみられた。

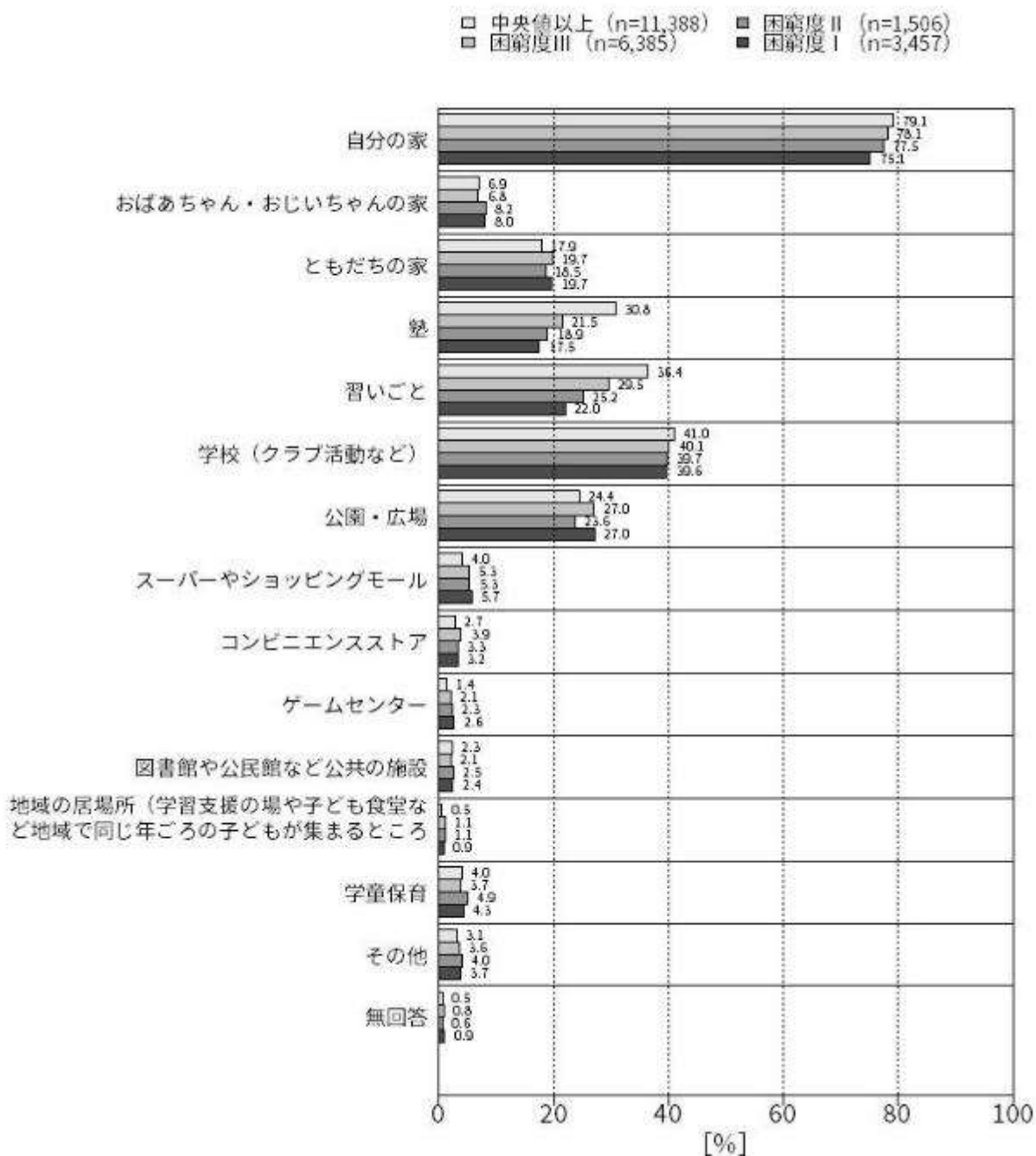
困窮度別に学校への遅刻を見ると、困窮度が高まるにつれ、週に1回以上遅刻をする子どもの割合が増え、困窮度Ⅰ群では、16.9%（大阪市全体：18.4%）である。このように週に1回以上遅刻をする子どもは、おうちの大人と一緒に夕食を食べたり、外出したりすることについて「ほとんどない」「まったく」と回答する割合がそれぞれ8.2%、11.8%であったことが確認された。これらは遅刻をしない子どもよりも高い割合である。同様に、週に1回以上遅刻をする子どもは学校や勉強のことで悩んでいるということも見られた。

また、本調査では、困窮度の高い世帯の子どもが学歴の低い進学先を希望する傾向があることが確認されている。子ども自身の進学希望として「中学」または「高校」と回答した割合は、中央値以上群では8.6%（大阪市全体：11.8%）であるのに対して、困窮度Ⅲ群、困窮度Ⅱ群、困窮度Ⅰ群ではそれぞれ9.7%、13.0%、16.1%（大阪市全体：19.2%、20.6%、25.4%）であった。

3-5. 対人関係

困窮度別に見た、放課後に過ごす場所（子ども票 問13）

<大阪市 24 区>



<大阪市阿倍野区>

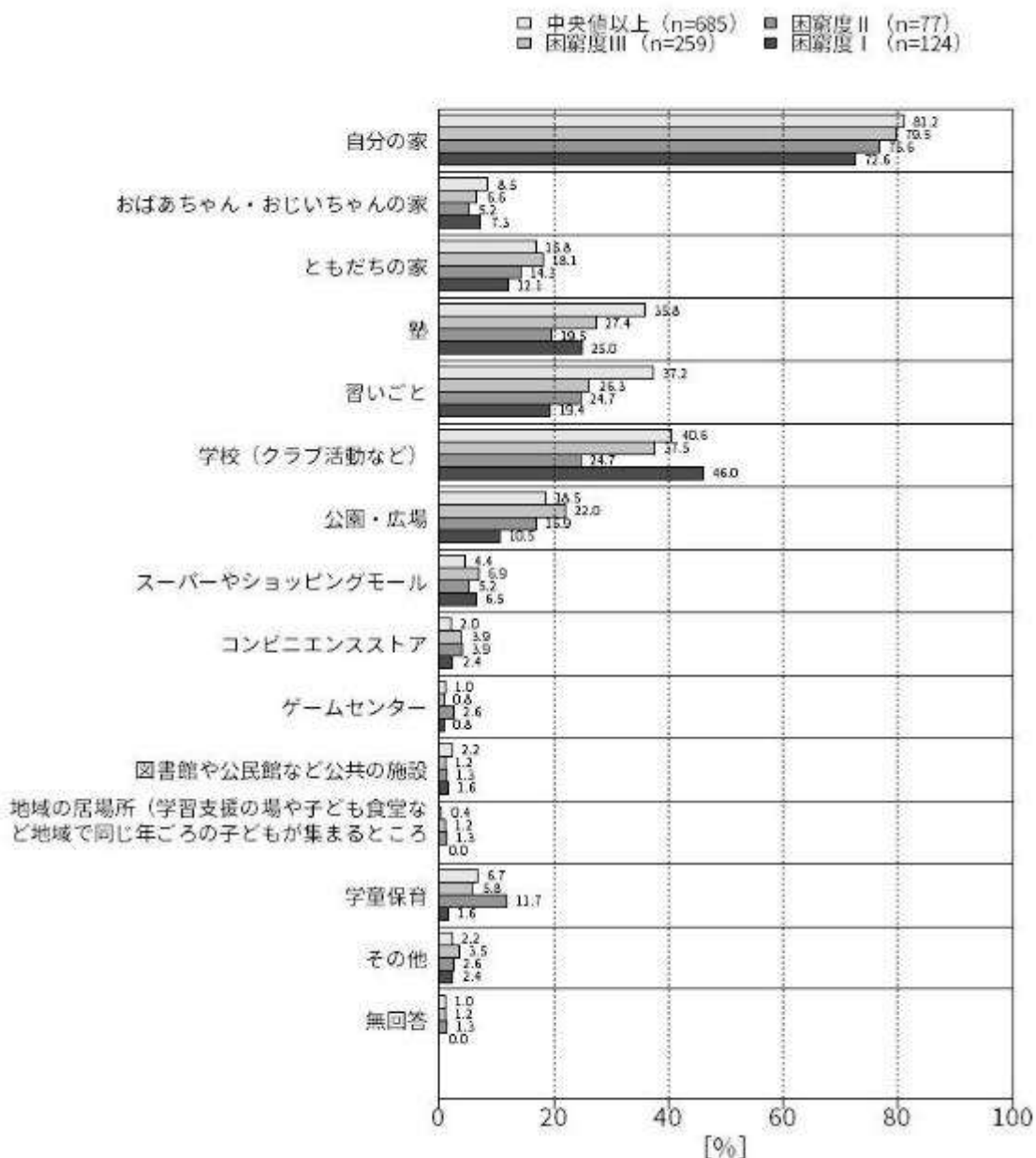
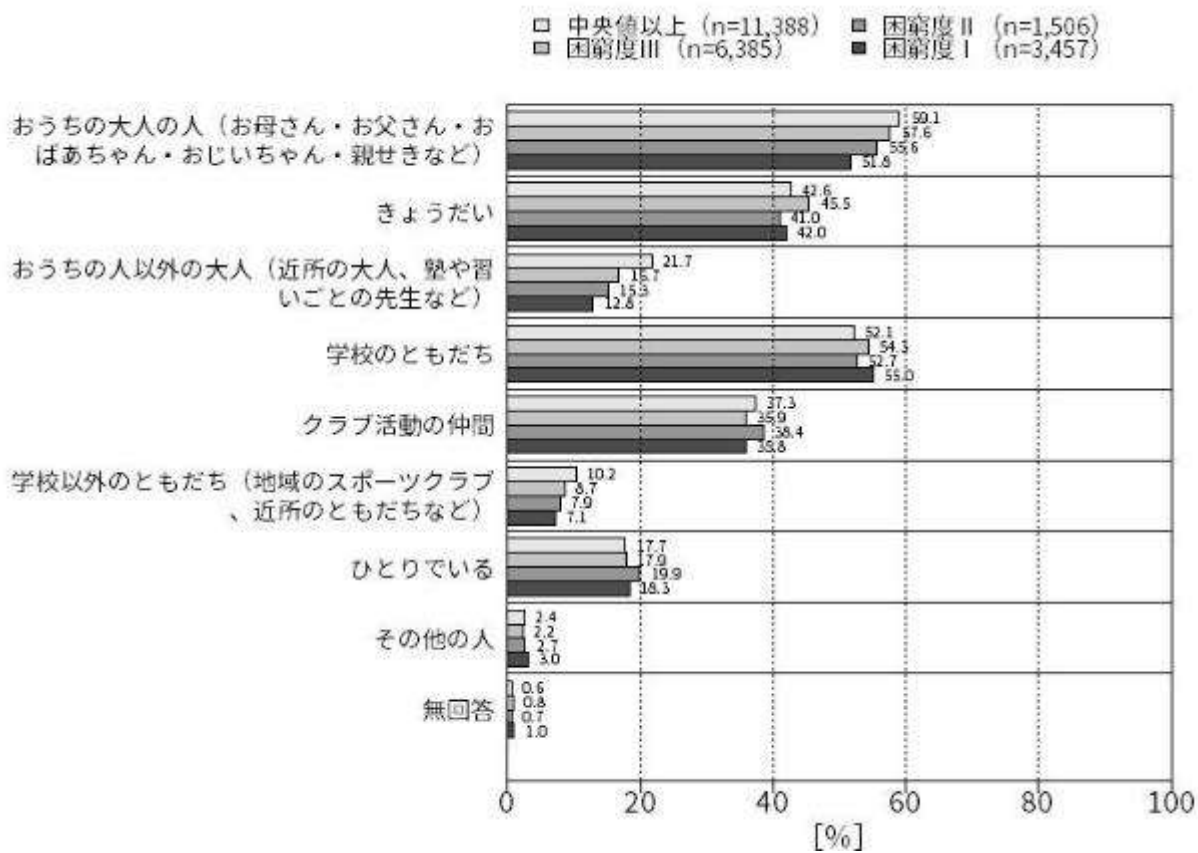


図 284. 困窮度別に見た、放課後に過ごす場所

困窮度別に子どもが放課後に過ごす場所を見ると、中央値以上群と困窮度 I 群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度 I 群の数値を挙げると、「スーパーやショッピングモール」6.5%（中央値以上群に対して、1.5 倍）、「コンビニエンスストア」2.4%（1.2 倍）、「学校（クラブ活動など）」46%（1.1 倍）、となり、困窮度 I 群において高い項目が複数みられた。また、中央値以上群では「学童保育」6.7%（困窮度 I 群に対して、4.2 倍）、「習いごと」37.2%（1.9 倍）、「公園・広場」18.5%（1.8 倍）が高かった。

困窮度別に見た、放課後一緒に過ごす人（子ども票 問 12）

<大阪市 24 区>



<大阪市阿倍野区>

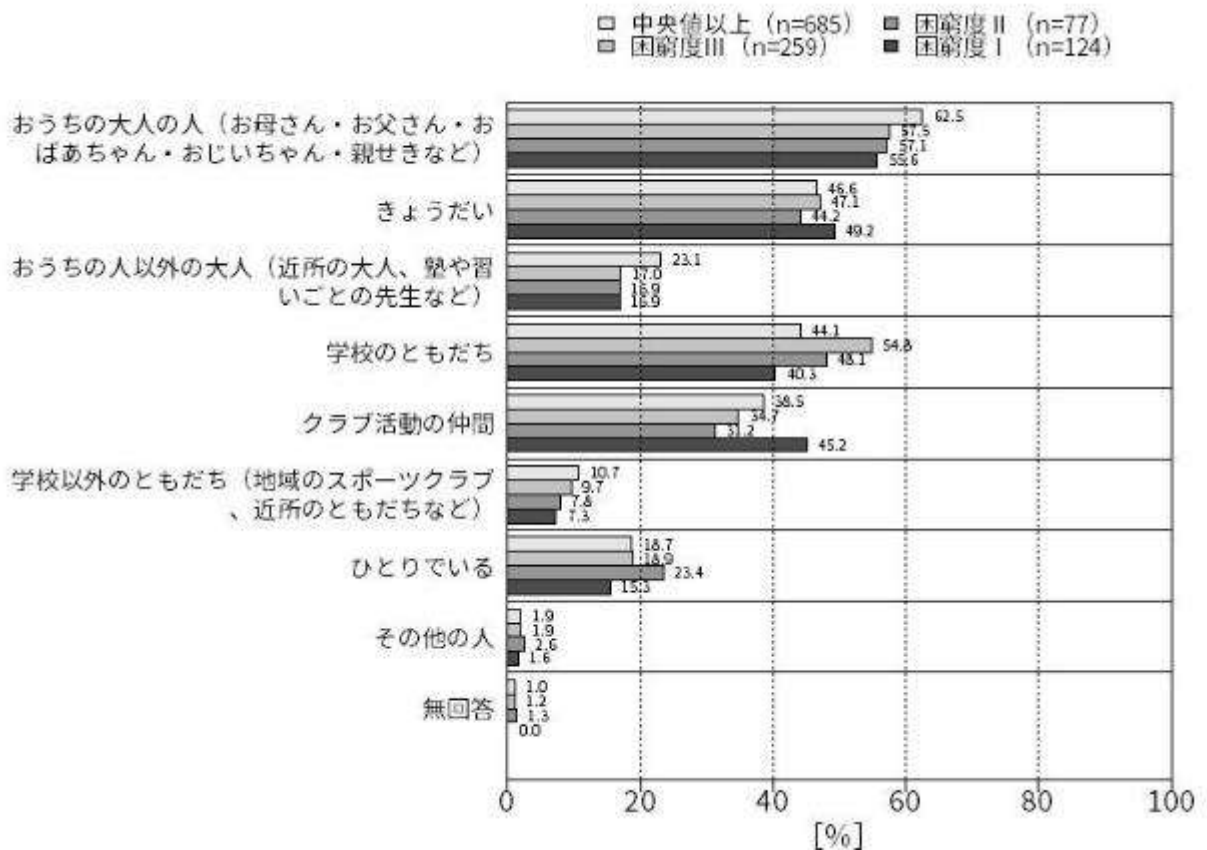
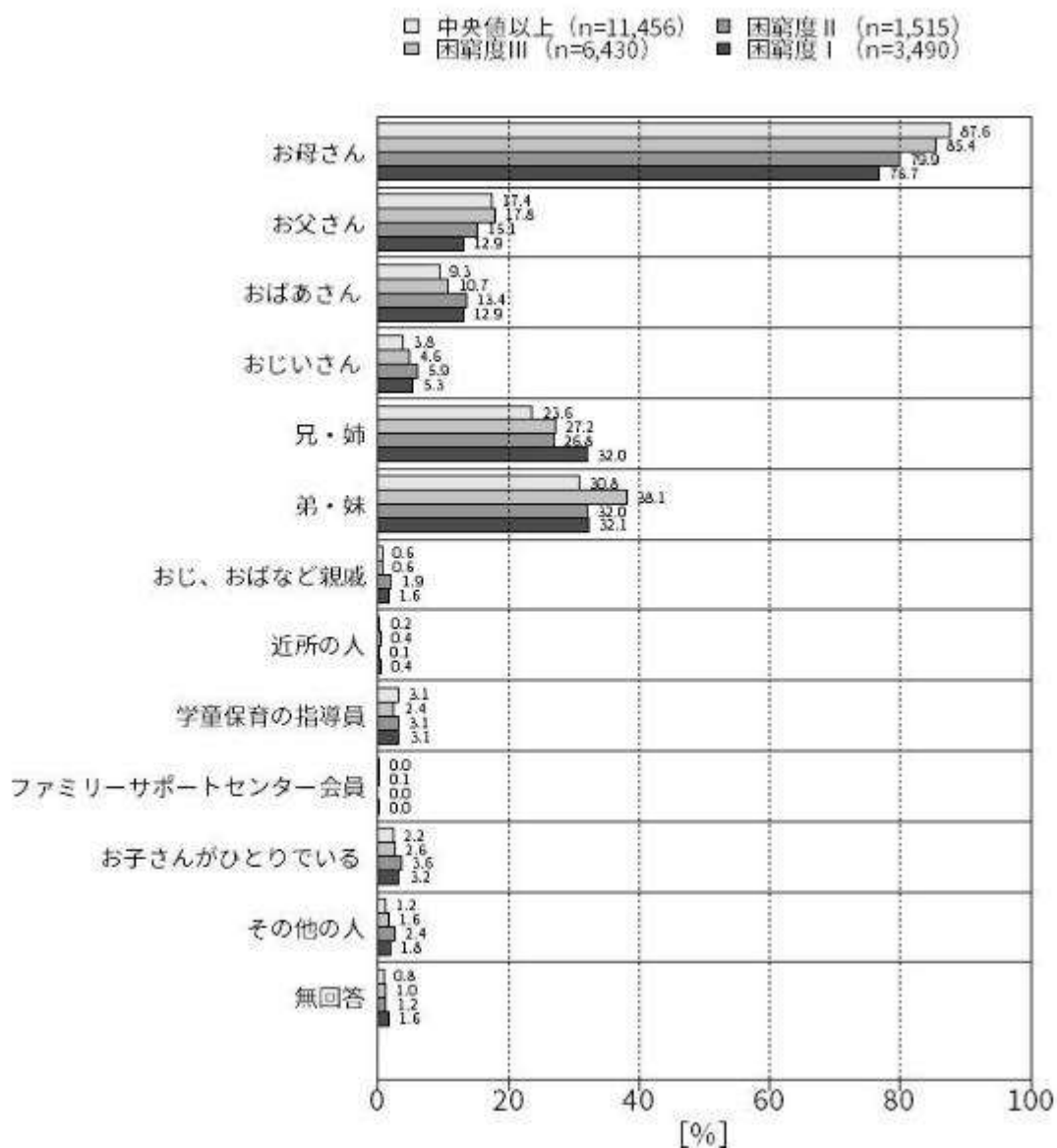


図 285. 困窮度別に見た、放課後一緒に過ごす人

困窮度別に子どもが放課後一緒に過ごす人を見ると、中央値以上群と困窮度 I 群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度 I 群の数値を挙げると、「クラブ活動の仲間」45.2% (中央値以上群に対して、1.2 倍)、「きょうだい」49.2% (1.1 倍)、「学校のともだち」40.3% (0.9 倍) と高く、中央値以上群では「学校以外のともだち (地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど)」10.7% (困窮度 I 群に対して、1.5 倍)、「おうちの人以外の大人 (近所の大人、塾や習いごとの先生など)」23.1% (1.4 倍)、「ひとりである」18.7% (1.2 倍) が高かった。

困窮度別に見た、子どもと過ごす時間が長い人（保護者票 問 11）

<大阪市 24 区>



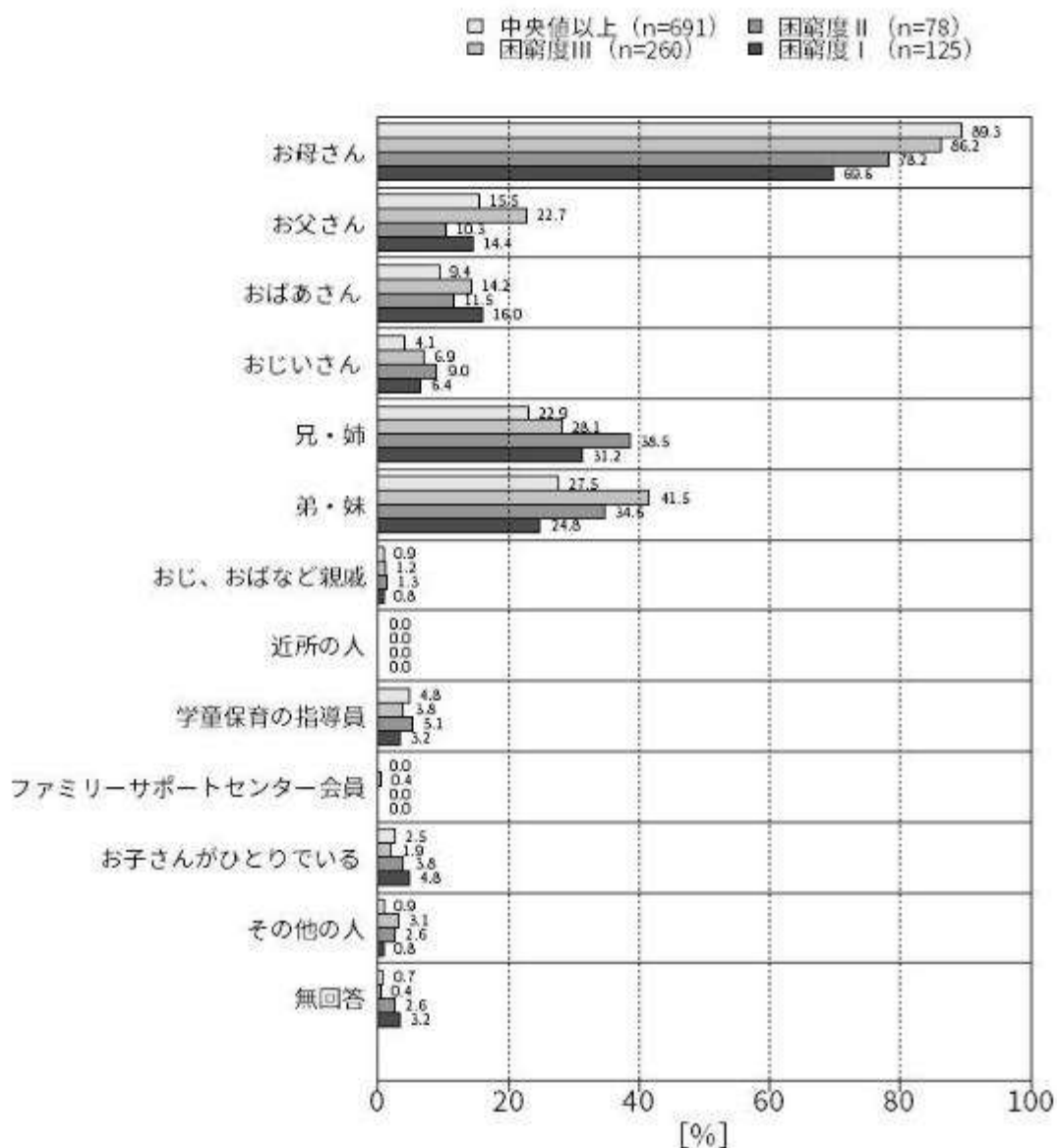
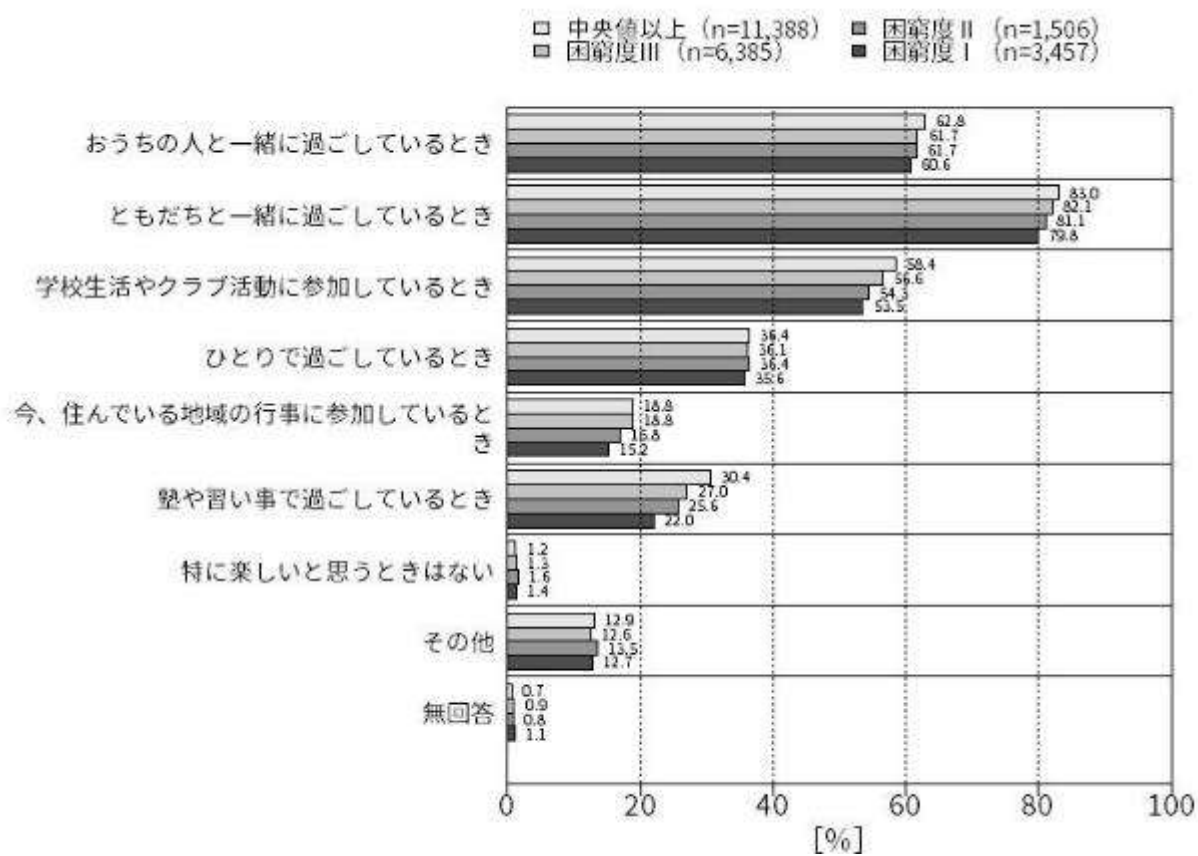


図 286. 困窮度別に見た、子どもと過ごす時間が長い人

困窮度別に保護者が放課後に子どもと過ごす時間が長い人を見ると、中央値以上群と困窮度 I 群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度 I 群の数値を挙げると、「お子さんがひとりである」4.8%（中央値以上群に対して、1.9 倍）、「おばあさん」16%（1.7 倍）、「おじいさん」6.4%（1.6 倍）となり、困窮度 I 群において高い項目が複数みられた。

困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと（子ども票 問11）

<大阪市 24 区>



<大阪市阿倍野区>

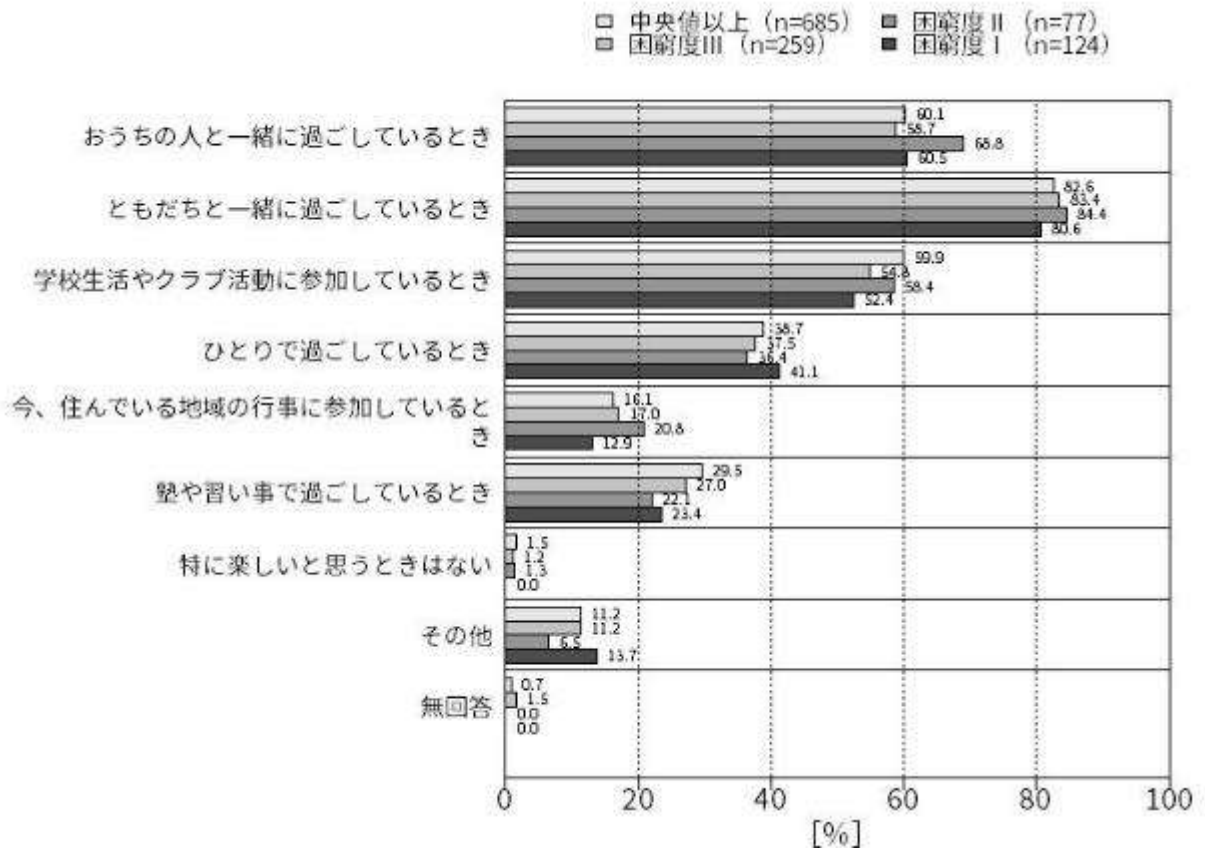


図 287. 困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと

困窮度別に子どもが毎日の生活で楽しいことを見ると、中央値以上群と困窮度 I 群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度 I 群の数値を挙げると、「その他」13.7%（中央値以上群に対して、1.2倍）が高かった。

困窮度別に見た、悩んでいること（子ども票 問21）

<大阪市 24 区>

